土 地 改 良 事 業 計 画 書

--- 県営土地改良事業 ---

農地中間管理機構関連農地整備事業

野田（のだ）地区

事業主体 佐賀県

目　　次

第１章　目　　的 …… 1
第２章　地域及び地積 …… 1
第1節　地　　域 …… 1
第2節　地　　積 …… 1
第３章　現　　況 …… 2
第1節　気象及び海象 …… 2
1.一般気象 …… 2
2.特殊気象 …… 2
3.海　　象 …… 3
第2節　土地状況 …… 3
1.地形、土壌及び侵食の程度 …… 3、4
2.土地分類 …… 4
3.土地利用の状況 …… 5
4.土地所有の状況 …… 5
第3節　水利状況 …… 6
1.用水状況 …… 6、7
2.排水状況 …… 8、9、10
3.河川状況 …… 11
第4節　道路現況 …… 11
1.道路概況 …… 11
2.主要道路一覧表 …… 11
第5節　地域農業の概況 …… 12
1.産業別就業人口 …… 12
2.経営耕地広狭別農家数及び
主副業別農家数 …… 12
3.動力農機具及び主要家畜頭数 …… 13
4.主要作物作付状況 …… 13
5.農業の動向 …… 14
第6節　地域環境の概況 …… 15
第４章　一般計画 …… 16
第1節　事業計画の要旨 …… 16
1.要　　旨 …… 16
2.事業別面積 …… 16
第2節　営農計画及び土地利用計画 …… 17
1.営農計画の概要 …… 17
2.土地利用区分 …… 17
3.作付方式 …… 18
4.生産計画 …… 19
5.労働改善計画 …… 20
6.級地別土地利用区分 …… 20
7.土地配分計画 …… 20

第3節　用水計画 …… 21
1.計画基準年 …… 21
2.計画かんがい方式 …… 21
3.計画用水系統 …… 21
4.計画用水量 …… 21
計画用水系統図 …… 22
5.水源計画 …… 23
第4節　排水計画 …… 24
1.計画基準雨量 …… 24
2.計画排水方式 …… 24
3.計画排水系統 …… 24
4.計画排水量 …… 24
計画排水系統図 …… 25、26
5.排水対策 …… 27
6.湛水検討 …… 27
第5節　道路計画 …… 28
1.道路及び索道 …… 28
2.路線配置図 …… 30-33
第6節　農用地造成計画 …… 29
1.農用地造成計画 …… 29
2.土壌改良 …… 29
第7節　洪水調節計画 …… 34
1.計画基準雨量 …… 34
2.計画洪水量及び調節量 …… 34
3.貯 水 池 …… 34
4.洪水調節検討 …… 34
5.管理計画 …… 34
第8節　干拓計画 …… 34
第9節　農用地整備計画 …… 35
1.区画整理 …… 35
2.暗渠排水 …… 36
3.客　土 …… 36
4.農地保全 …… 36
5.農業用水(雑用水施設) …… 36
第10節　老朽ため池改修計画 …… 36
1.計画基準雨量 …… 36
2.計画洪水量 …… 36
3.施設整備計画 …… 36
第5章　主要工事計画 …… 36
第1節　用水施設 …… 36
1.貯 水 池 …… 36
2.頭 首 工 …… 36
3.揚 水 機 …… 36
4.用 水 路 …… 37
5.その他かんがい施設 …… 37
第2節　排水施設 …… 37
1.排水水門 …… 37
2.排 水 機 …… 37
3.排 水 路 …… 38
4.その他排水施設 …… 38

第3節　道路及び索道 …… 39
1.道　路 …… 39
2.索　道 …… 40
第4節　農用地造成 …… 40
1.農用地造成 …… 40
2.土壌改良 …… 40
第5節　洪水調節施設 …… 40
1.貯 水 池 …… 40
2.頭首工及び導水路 …… 40
第6節　干拓施設 …… 40
第7節　農用地整備施設 …… 41
1.区画整理 …… 41
2.暗渠排水 …… 41
3.客　土 …… 41
4.除　礫 …… 41
5.農地保全 …… 41
6.農業用水(雑用水施設) …… 41
第8節　老朽ため池改修施設 …… 42
1.貯 水 地 …… 42
2.堤体補強施設 …… 42
第6章　附帯工事計画 …… 42
第7章　工事の着手及び完了の予定時期 …… 42
第8章　環境との調和への配慮 …… 42
第9章　換地計画の概要 …… 43
第1節　換地計画を作成する上での基本的な考え方 …… 43
第2節　換地区の設定 …… 43
1.換地区の名称、所在、面積 …… 43
2.換地区を設定する理由 …… 43
第3節　換地計画樹立の基本方針 …… 43
1.従前の土地の地籍の基準 …… 43
2.用途別予定地積 …… 44
3.農用地集団化の方針 …… 44
4.非農用地の換地方法 …… 44
第4節　土地の評価及び清算の方法 …… 45
1.評価の方法 …… 45
2.清算の方法 …… 45
第5節　換地計画樹立の年度計画 …… 45
第6節　換地処分の時期に関する特則 …… 45
第10章　事業費の総額及び内訳 …… 46
第11章　効　用 …… 47
第12章　関連する事業 …… 48
第13章　現況･計画図面 …… 48
計画一般平面図及び主要構造図 …… 49

第1章　　目　　的

当地区は佐賀県唐津市浜玉町東山田の中山間地に位置し、露地ミカン産地として、昭和53年から平成6年にかけて県営畑地帯総合整備事業　浜崎地区（以下、県営畑総事業という。）により畑地かんがい施設が整備されていたが、地域の園地は未整備で、担い手への農地集積が進みにくい状況となっている。

また、営農者の高齢化や後継者不足等による農家の減少、農地の荒廃化、平坦な農地は宅地化など地域の農業情勢が大きく変化している。

このため、本地区では中山間地域の未整備園地を対象として、農地中間管理機構を介して団地化し、再整備することで営農の効率化と周辺地域を含めた担い手への農地の集積・集約を図り、稼げる農業の実現を図る。

第2章　　地域及び地積

第1節　　地　　域

（第 1 表）

事　　業　　名	地　　域
農地中間管理機構関連農地整備事業	佐賀県（さがけん） 唐津市（からつし） 浜玉町（はまたままち） 東山田（ひがしやまだ）

第2節　　地　　積

（R7年5月現在）　　（第 2 表）

事　業　名	現況地目 / 市町村名	田 (ha)	畑 (ha)	山林・原野 (ha)	その他 (ha)	道・水路 (ha)	計 (ha)	備　考
農地中間管理機構関連農地整備事業	唐津市	－	5.55	0.70	0.02	0.40	6.67	
合　計		－	5.55	0.70	0.02	0.40	6.67	

第3章　　現　況

第1節　気象及び海象

1. 一般気象　　（第3表－1）

観測所名	唐津観測所	かんがい期	非かんがい期	計	備　　考
観測期間	昭和51年～令和3年	6月～10月	11月～5月	又は平均	
平均気温　(℃)		23.8	11.2	17.5	
降水量	平　均　(mm)	1,204	764	1,968	S51～R3
	基準年　(mm)	－	－	－	
降水日数	平　均　(日)	55	74	129	
	基準年　(日)	－	－	－	
根雪期間		－月－日 ～ －月－日			
無霜期間		－月－日 ～ －月－日			
最多風向		S	最大風速 (風向)	16.8　m/s (N)	最多風向発生時期:7月 観測期間:H22～R3 最大風速発生年月日:H27.8.25 :H29.10.22 観測期間:H22～R3

2. 特殊気象　　（第3表－ 2）

観測所名 唐津観測所	第1位			第2位			第3位			第4位			第5位			備考
観測期間 昭和51年～令和3年	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	
最大日雨量(mm)	281	S60.6.25		270	H14.9.16		264	R3.8.14		255	H13.6.19		249	S58.7.16		
最大時間雨量(mm)	92	S63.7.17		82	H3.9.14 H11.6.29		70	H29.8.26		68	H18.9.16		65	S60.6.25		
最大連続雨量(mm)	844	S60.6.21 ～60.6.28		730	R3.8.8 ～3.8.18		625	R1.8.20 ～1.8.29		541	S61.7.4 ～61.7.16		513	H13.6.18 ～13.6.29		
最大連続 干天日数(日)	56	S58.10.27 ～58.12.21		51	H18.9.20 ～18.11.9		49	S54.12.12 ～55.1.29		46	H10.12.4 ～11.1.18		44	H7.11.25 ～8.1.7		

3. 海　象　　該当なし

第2節　　土 地 状 況

1. 地形、土壌及び侵食の程度　　（第4表 － 1－ 1）

事業名	地目	田						畑 ・ そ の 他								受益地標高 (m)		備考
	傾斜区分	1/1,000 未満	1/1,000 ～ 1/100	1/100 ～ 1/20	1/20 ～ 1/11.5	1/11.5 以上	計	3° 未満	3° ～ 8°	8° ～ 15°			15° ～ 20°	20° 以上	計	最高	最低	
										8° ～ 12°	12° ～ 15°	8° ～ 15°						
農地中間管理機構関連農地整備事業	面積 (ha)							0.58	4.23	－	－	0.13	0.28	0.33	5.55	125	61	(野田工区) 61～87m (原工区) 81～125m
	比率 (%)							10	76			2	5	6	100.0			
合 計	面積 (ha)							0.58	4.23	－	－	0.13	0.28	0.33	5.55			
	比率 (%)							10	76			2	5	6	100.0			

土壌統(区)区分　　（第4表 - 1- 2）

項目 / 土壌統(区)名	土壌統（区）区分一覧表										面積（ha）			備考
	土壌断面								堆積様式	母材	事業名			
	色	腐植	礫層	酸化沈澱物	土性 表土 一層	土性 下層土 二層	土性 下層土 三層	泥炭層黒泥層及びグライ層			農地中間管理機構関連農地整備事業		計	
大代統	10YR4/3	含む	あり		LS	LS	-			花崗閃緑岩	5.55		5.55	
計											5.55		5.55	

2. 土地分類　　該当なし

3. 土地利用の状況　　（R7年5月現在）　　（第4表－3）

事業名	土地利用別 / 市町村名	耕地								山林		採草放牧地	原野	その他	計	備考
		水田 (ha)	普通畑 (ha)	牧草畑 (ha)	果樹園 (ha)	桑園 (ha)	茶園 (ha)	その他の樹園地 (ha)	小計 (ha)	用材林 (ha)	薪炭林 (ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	
農地中間管理機構関連農地整備事業	唐津市	－	5.27	－	0.28	－	－	－	5.55	0.04	－	－	0.66	0.42	6.67	
合計		－	5.27	－	0.28	－	－	－	5.55	－	－	－	0.66	0.42	6.67	

4. 土地所有の状況　　（第4表－4）

事業名	所有別 / 区分	個人有	共有	市有	県有	国有		計	備考
農地中間管理機構関連農地整備事業	面積(ha)	6.3	0.0	0.4				6.7	
	受益者数(人)	20						20	
	筆数(筆)	90	5	17				112	
	権利関係	所有者	浜玉畑総土地改良区	唐津市					
	備考(関係戸数)	20						20	
合計	面積(ha)	6.3	0.0	0.4				6.7	
	受益者数(人)	20						20	
	筆数(筆)	90	5	17				112	
	権利関係	所有者	浜玉畑総土地改良区	唐津市					
	備考(関係戸数)	20						20	

第3節　水利状況

1. 用水状況

本地区は、長石ため池及び西の迫ため池を水源としており、パイプラインにより地区内の農地に安定した農業用水を供給している。

(1) 用水系統　　別 紙 図 面 参 照

(2) 用水施設

(ア) 取水方法一覧表　　（第5表 － 1）

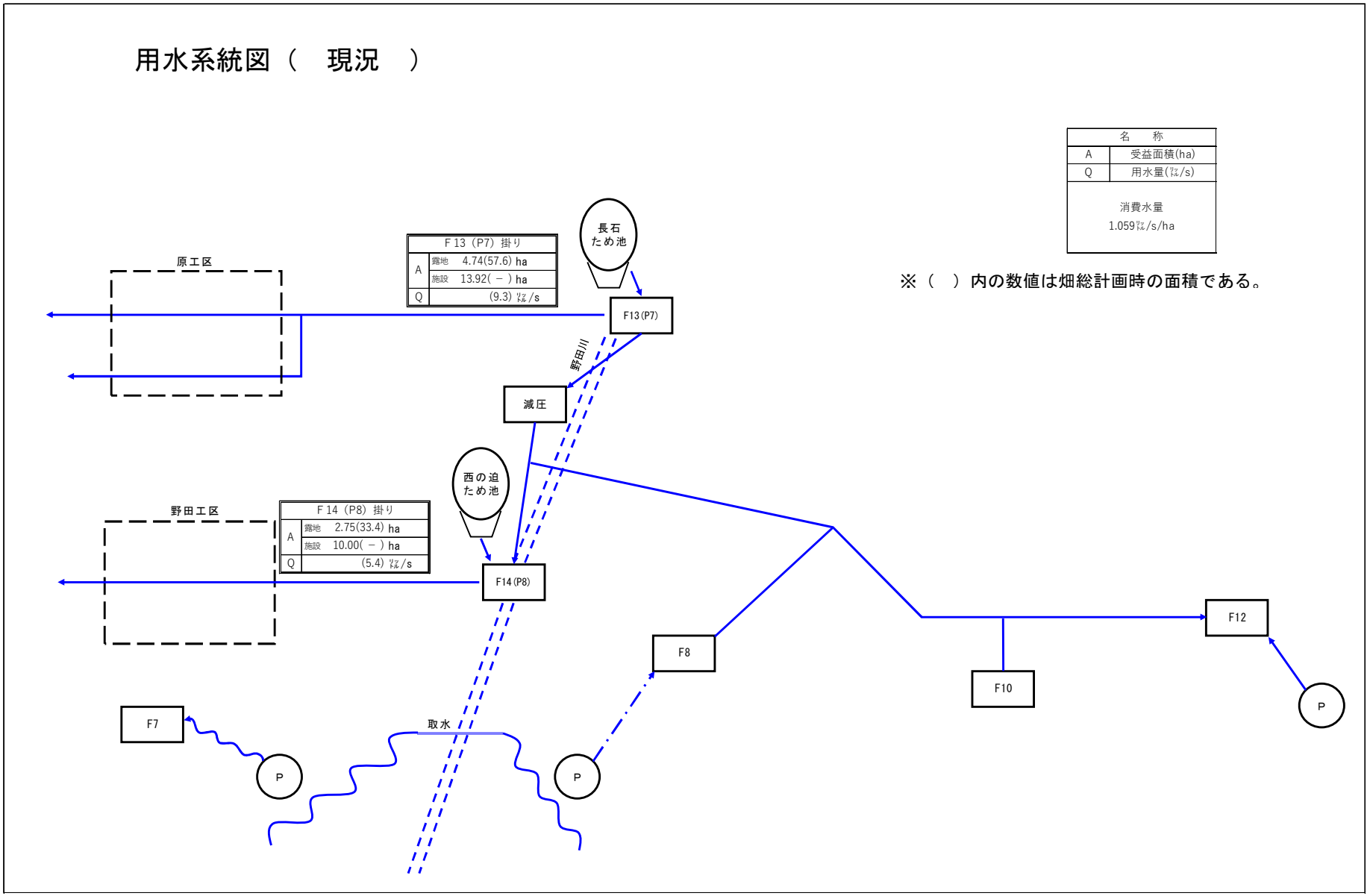
事業名	項目／施設名	かんがい面積						計		許可水利権		慣行水利権		延べ取水量	備考
		100 ha 以上		100～30ha		30 ha 未満									
		箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	m^3/s	箇所	m^3/s	m^3/s	
農地中間管理機構関連農地整備事業	貯水池(ダム)			2	31.4			2	31.4				0.07		
	井　　堰														
	自然取入口														
	揚 水 機														
	そ の 他														
	計			2.0	31.4			2	31.4				0.07		
合　計				2.0	31.4			2	31.4				0.07		

(イ) 改修を要する施設一覧表　　（第5表 － 2）

事業名	項目／施設名	施設名又は箇所数	受益面積 (ha)	構　造	規　模	新設年又は更新年	改修を必要とする理由	備　考
農地中間管理機構関連農地整備事業	貯水池(ダム)							
	井　　堰							
	自然取入口							
	揚 水 機							
	用 水 路	1.2 km	5.55	管水路	塩ビφ100～200	平成7年	区画整理に伴う改修	
	そ の 他							
	計		5.55					
合　計			5.55					

(3) 用水に関する被害状況　　該当なし

【現況用水系統】


用水系統図（　現況　）
名　称
A　受益面積(ha)
Q　用水量(ℓ/s)
消費水量
1.059ℓ/s/ha
※（　）内の数値は畑総計画時の面積である。
原工区
F 13（P7）掛り
A　露地　4.74(57.6) ha
施設　13.92(－) ha
Q　(9.3) ℓ/s
長石ため池
F13(P7)
野田川
減圧
西の迫ため池
野田工区
F 14（P8）掛り
A　露地　2.75(33.4) ha
施設　10.00(－) ha
Q　(5.4) ℓ/s
F14(P8)
F12
F8
F10
F7
取水
P
P
P

2. 排水状況

本地区の排水は、概ね地区内の農地（樹園地・畑）を流域とし、土水路を介して、地区外へ流出している。

(1) 排水系統　　別 紙 図 面 参 照

(2) 排水施設

(ｱ) 排水方法一覧表　　（第5表 － 4）

事業名	項目／施設名		排水面積 100 ha 以上 箇所	排水面積 100 ha 以上 ha	排水面積 100未満～30ha以上 箇所	排水面積 100未満～30ha以上 ha	排水面積 30 ha 未満 箇所	排水面積 30 ha 未満 ha	計 箇所	計 ha	排水慣行 (m^3/s)	現況排水能力 (m^3/s)	備考
農地中間管理機構関連農地整備事業	自然	排水路					0.4km	5.55	0.4km	5.55		16	野田工区(13.97m3/s),原工区(1.78m3/s)
		水門											
	機械	排水機											
		水門及び排水機											
		排水路及び排水機											
	計						0.4km	5.55	0.4km	5.55		16	
合計							0.4km	5.55	0.4km	5.55		16	

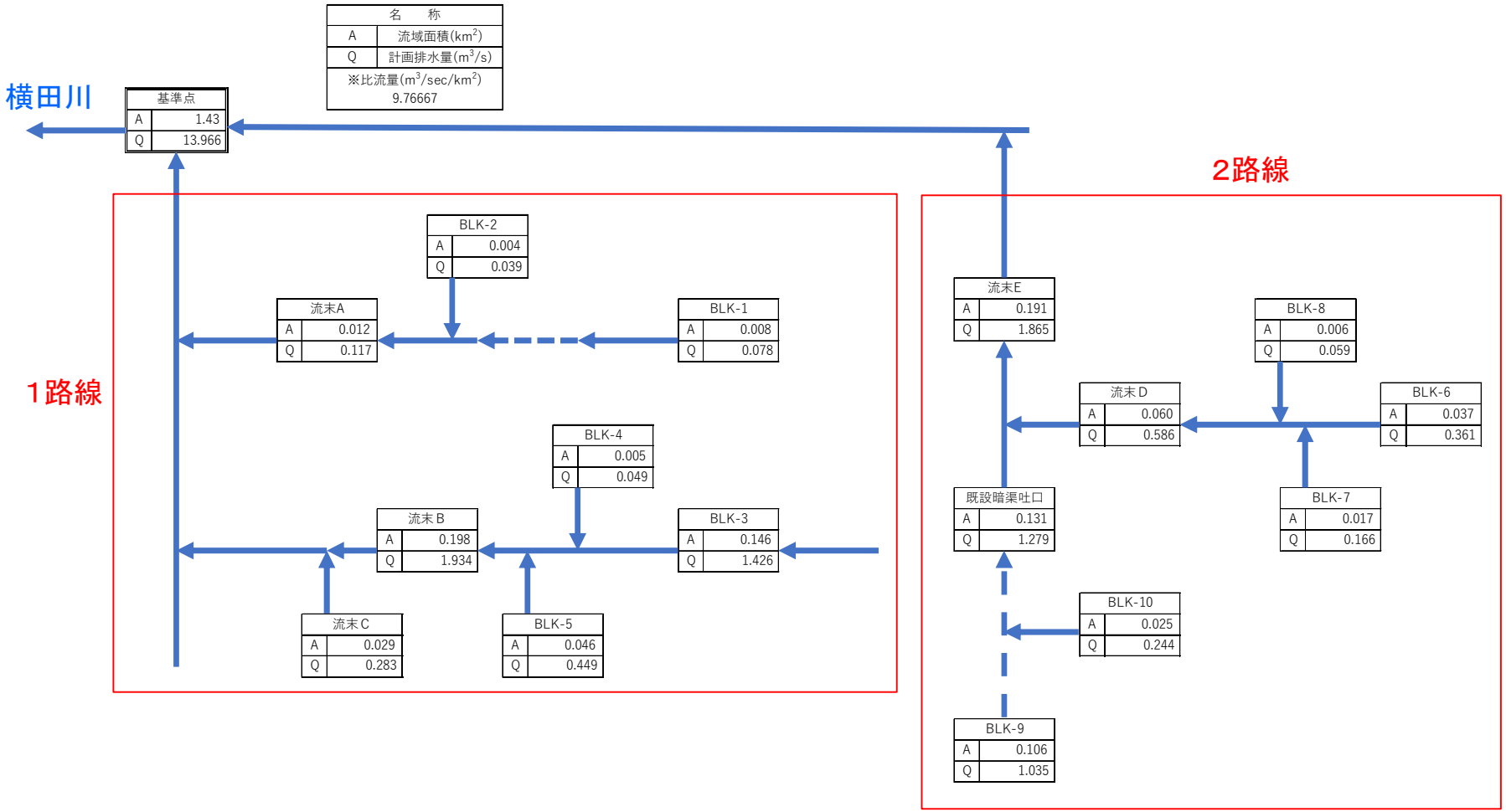
(ｲ) 改修を要する施設一覧表　　（第5表 － 5）

事業名	項目／施設名		施設名又は箇所数	受益面積 (ha)	構造	規模	新設年又は更新年	改修を必要とする理由	備考
農地中間管理機構関連農地整備事業	自然	排水路	0.4km	5.55	開水路 (土水路・U字溝)	上幅 0.5～1.3m 高さ 0.5~1.8m	不明	区画整理に伴う改修	計画受益面積　A=5.55ha
		水門							
	機械	排水機							
		水門及び排水機							
		排水路および排水機							
	計								
合計			0.4km	5.55					

(3) 排水に関する被害状況　　該 当 な し

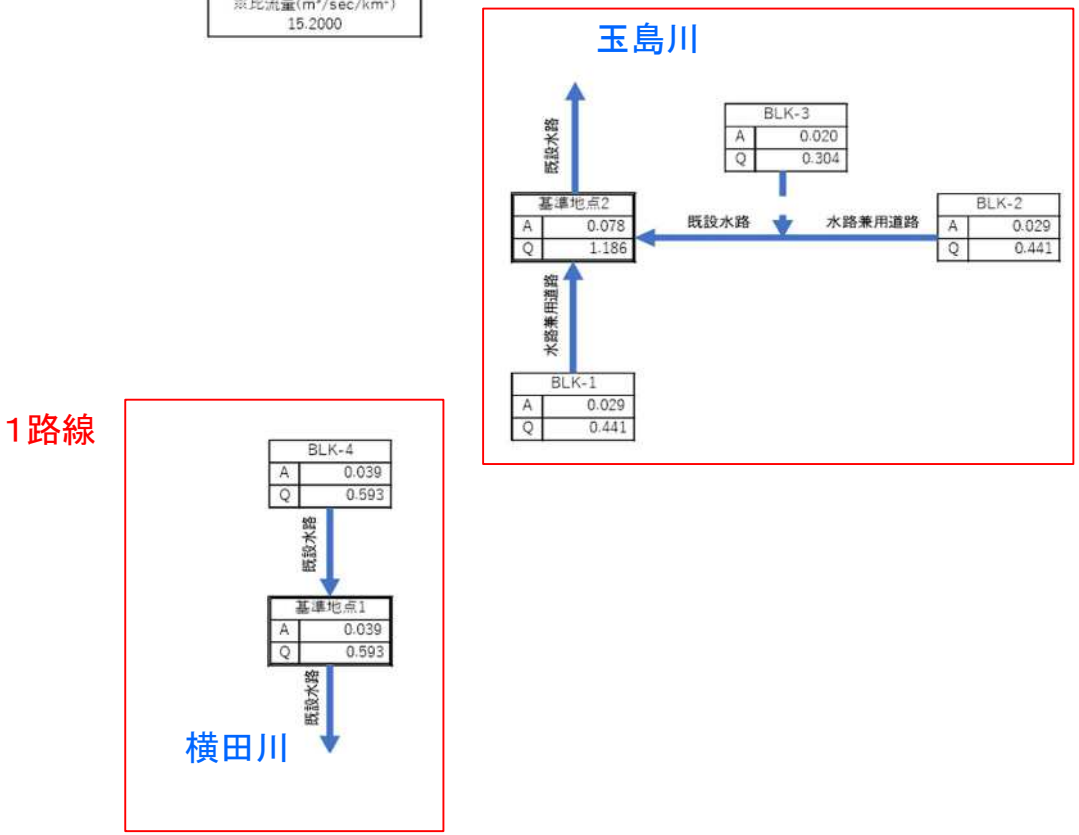
【現況排水系統】

野田工区


名　称
A 流域面積(km²)
Q 計画排水量(m³/s)
※比流量(m³/sec/km²)
9.76667
横田川
基準点
A 1.43
Q 13.966
1路線
2路線
BLK-2
A 0.004
Q 0.039
流末A
A 0.012
Q 0.117
BLK-1
A 0.008
Q 0.078
BLK-4
A 0.005
Q 0.049
流末 B
A 0.198
Q 1.934
BLK-3
A 0.146
Q 1.426
流末 C
A 0.029
Q 0.283
BLK-5
A 0.046
Q 0.449
流末E
A 0.191
Q 1.865
BLK-8
A 0.006
Q 0.059
流末 D
A 0.060
Q 0.586
BLK-6
A 0.037
Q 0.361
既設暗渠吐口
A 0.131
Q 1.279
BLK-7
A 0.017
Q 0.166
BLK-10
A 0.025
Q 0.244
BLK-9
A 0.106
Q 1.035

原工区

名　称	
A	流域面積(km²)
Q	計画排水量(m³/s)
※比流量(m³/sec/km²) 15.2000	



3. 河川状況

(1) 河川状況　　該当なし

(2) 洪水に関する被害状況　該当なし

第4節　道路現況

1. 道路概況　　本地区内には、既存の農道1,013mが存在する。幅員が狭く、農道が各圃場に接していないなど農道自体が不足しており農業機械の搬入や農作物の搬出等に多大な労力を要している。

2. 主要道路一覧表

（第6表）

No.	路線名	管理区分別	延長 (m)	幅員(m)		構造	改修の要否	備考
				全幅	有効幅員			
1	市道 桑原-野田線	唐津市	278	2.5	2.5	Co	要	(野田工区)
2	農道	唐津市	37	2.3	2.3	Co	要	(野田工区)
3	農道	唐津市	49	2.3	2.3	Co	要	(野田工区)
4	農道	唐津市	31	2.0	2.0	Co	要	(野田工区)
5	農道	唐津市	29	1.7	1.7	砂利舗装	要	(野田工区)
6	市道 桑原-野田線	唐津市	188	4.0	4.0	As	否	(野田工区)
7	農道	唐津市	220	3.7	3.7	As	要	(原工区)
8	農道	唐津市	140	2.5	2.5	Co	要	(原工区)
9	農道	唐津市	41	2.3	2.3	砂利舗装	要	(原工区)
10								
11								
12								
13								
14								

第５節　　地域農業の概況

1.　産業別就業人口　　（第7表-1）

項目／市町村名	総数（人）	農業（人）	林業（人）	漁業（人）	鉱業（人）	建設業（人）	製造業（人）	電気・ガス・熱供給水道業（人）	運輸通信業（人）	飲食店卸売小売業（人）	金融保険業（人）	不動産業（人）	サービス業（人）	公務（人）	その他（人）	備考
唐津市	56,466	5,197	69	664	62	5,731	7,102	827	2,724	7,836	752	506	22,199	1,862	935	
計	56,466	5,197	69	664	62	5,731	7,102	827	2,724	7,836	752	506	22,199	1,862	935	
比率（%）	100.0	9.20	0.12	1.18	0.11	10.15	12.58	1.46	4.82	13.88	1.33	0.90	39.31	3.30	1.66	

「令和2年国勢調査」より

2.　経営耕地広狭別農家数及び主副業別農家数　　（第7表-2）

区分／市町村名	総農家戸数（戸）	経営耕地広狭別農家数（戸）							1戸当たり平均農用地面積（ha）						主副業別農家数（戸）			備考
		0.5未満	0.5～1.0	1.0～2.0	2.0～3.0	3.0～5.0	5ha以上	自給的農家	田	畑	樹園地	小計	草地	計	主業	準主業	副業	自給農家
唐津市	3,449	386	860	788	275	194	76	870	1.40	3.30	6.54	11.24	1.40	12.64	1,156	707	1,337	870
計	3,449	386	860	788	275	194	76	870	1.40	3.30	6.54	11.24	1.62	12.86	1,156	707	1,337	870
比率（%）	100.0	11.2	24.9	22.8	8.0	5.6	2.2	25.2	10.9	25.7	50.9	87.4	12.6	100.0	33.5	20.5	38.8	25.2

「2020、2015農林業センサス」より

3.　動力農機具及び主要家畜頭数　　（第7表-3）

項目 ＼ 市町村名	動力農機具						主要家畜								備考
	ﾄﾗｸﾀｰ		ｺﾝﾊﾞｲﾝ		田植機		乳用牛		肉用牛		豚		ブロイラー		
	数量（台）	戸数（戸）	数量（台）	戸数（戸）	数量（台）	戸数（戸）	数量（頭）	戸数（戸）	数量（頭）	戸数（戸）	数量（頭）	戸数（戸）	出荷数量（百羽）	戸数（戸）	
唐津市	2,963	2,361	1,532	1,443	1,706	1,659	550	16	X	143	18,907	10	31,080	7	肉用牛は未公表のため「X」とした
計	2,963	2,361	1,532	1,443	1,706	1,659	550	16	X	143	18,907	10	31,080	7	
100戸当たり数量（台，頭）	125		106		103		3,438		—		189,070		444,000		
利用戸数割合（％）	71.7%		43.8%		50.4%		0.5%		6.3%		0.4%		0.2%		

動力農機具は「2015農林業センサス」、主要家畜は「2020農林業センサス」より

4.　主要作物作付状況　　（第7表-4）

市町村名	唐津市						計	作付率	備考
経営耕地面積（ha）	6,480						6,480		
区分 ＼ 作物名	作付面積（ha）						作付面積（ha）	（％）	
水稲	2,060						2,060	68	
大豆	7						7	0	
二条大麦	162						162	5	
たまねぎ	219						219	7	
そば	3						3	0	
ばれいしょ	17						17	1	
ねぎ	85						85	3	
きゅうり	31						31	1	
みかん類	358						358	12	
茶	87						87	3	
計　(B)	3,029						3,029	100	

第70次佐賀県農林水産統計年報（令和4～5年度版）農林水産省調査（田）
政府統計の総合窓口　作物統計調査　作付け調査（野菜）確報　令和5年野菜生産出荷統計
農林業センサス2020（樹園地）

5. 農業の動向

（第7表-5）

項目	農　家			土　地			主要作物			主　要　家　畜			動力機械具			地域指定等	備　考
区分		B	A		B	A		B	A		B	A		B	A		
変化の状況 （C年を100とする指数）	総農家数	114	94	経営耕地	86	72	水稲	79	84	乳用牛	59	43	トラクター	87	―	＜公園・緑地等＞ ・八幡岳県立自然公園第3種特別地域 （59ha・昭和45年） ・天山県立自然公園第3種特別地域 （59ha・昭和45年） ・作礼山鳥獣保護区 （465ha・平成6年） ・岸岳鳥獣保護区 （24ha・平成12年） ＜農業関連＞ ・農業振興地域 （平成9年） ・野菜指定産地 （昭和52年・たまねぎ）	A：令和2年（2020年） B：平成27年（2015年） C：平成22年（2010年）
	主業農家数	111	―	田	85	73	大豆	―	―	肉用牛	―	―	コンバイン	84	―		
	準主業農家数	73	―	畑	89	75	大麦	90	91	豚	120	80	田植機	78	―		
	副業的農家数	103	―	樹園地	86	63	小麦	―	―	採卵鶏	84	53					
	農業従事者数	86	67	草地						ブロイラー	139	158					
変化の理由	農家の高齢化に伴う離農や農産物の価格低迷等による他産業への流出・従事により農家数の減少。			住宅や工場の開発行為等の農地転用による耕地面積の減少。樹園地は農家の高齢化による労働力の不足により、一時畑への転換が行われたが、耕作放棄地が進行している。			水稲作付けの増。			農家の高齢化による離農や経営規模の縮小等により乳用牛、豚、採鶏卵の減少。ブランド化による高収益のブロイラー増。			統計不可				

農家・土地・大家畜・動力機械具は「農林業センサス　第1巻都道府県別統計書(全47冊)　佐賀県」より

※空欄は、データが公表されていなかったため、反映できなかったもの

主要作物は「農林水産省　作物統計調査」より

第6節　地域環境の概況

（地域の位置、地形、気候）

本市は、佐賀県の北西に位置し、人口は約12万人、面積約 487.58平方キロメートルの市域を有している。

東部は脊振山系が唐津湾に向かってなだらかに傾斜し、中部は松浦川の流域に沿って平坦部が広がり、西部には丘陵地帯の上場台地がある。その地先をなす唐津湾は帯状の松原と砂浜が両翼に広がっている。

また、平均気温は約17℃、降雨量は約2200mmで温暖多雨の内陸性気候の特徴を有している。

（植物）

唐津湾沿岸に広がる松原が生育している。また、樫原湿原にはサギソウ、トキソウなどの湿地性植物、ミツガシワ、シズイなどの九州には稀な寒冷地分布植物が生育している。

（動物）

周辺の森林や水田の保全を目的とした野焼きによる維持管理がなされ、良好な草原環境が保たれていることから、キイトトンボやオニヤンマなどの里地里山に特徴的な昆虫類が見られる。

また、希少種や地域固有種、貴重な群落などが多くみられる地域、豊かな自然環境、生態系が保たれている地域などとして、「佐賀県生物多様性重要地域」に選定されている。

（景観）

本市を含めた佐賀県北部地域では、古くから大陸との交流が盛んに行われてきた。中世では、蒙古襲来に対して活躍した松浦党などの豪族たちの史跡である岸岳城跡、獅子城跡などの史跡が残されており、豊臣秀吉の朝鮮出兵の基地となった名護屋城跡や江戸時代になって築城された唐津城の城下町も残っている。

近代における唐津の経済は、豊かな石炭と天然の良港により、石炭産業の興隆によって栄えた。その面影は、唐津出身の建築家・辰野金吾監修によって造られた旧唐津銀行や石炭で富を築いた高取伊好による旧高取邸を見ることができる。

（本事業と環境への対応）

本地域は、環境配慮区域に位置する事から、工事施工時において環境周辺に影響を及ぼさないよう十分な工法の検討が必要である。また、地区外への濁水流出対策として沈砂池を設置する。

第4章　一般計画

第1節　事業計画の要旨

1. 要　旨

本事業は、地区内の農地の大半が未整備であり、担い手への農地集積が進めにくい状況であることから、農地中間管理機構関連農地整備事業を活用し区画整理を実施することで、担い手への農地の集積・集約を図り、農作業の効率化と併せて収益性の高い営農により、稼ぐ農業の実現を図るものである。

・区画整理	・整地工	標準区画 40m×95m	A＝	5.5	ha	
	・道路工	支線5m　支線4m　耕作3m	L＝	1.1	km	支線0.9km、耕作0.2km
	・用水路工	ﾊﾟｲﾌﾟﾗｲﾝ	L＝	1.2	km	塩化ビニール管(φ100㎜)
	・用水路工	井戸	N＝	1	箇所	掘進100m　掘進径φ150　ポンプφ100
	・排水路	開水路	L＝	1.6	km	三面(1000×600～2000×1000)　U字溝(U300～600)

2. 事業別面積　　（第8表）

事業名	農地中間管理機構関連農地整備事業																				合　計	備　考
土地利用区分 / 事業目的	水田 (ha)	輪換耕地 (ha)	普通畑 (ha)	牧草畑 (ha)	果樹園 (ha)	その他 (ha)	小計 (ha)	水田 (ha)	輪換耕地 (ha)	普通畑 (ha)	牧草畑 (ha)	果樹園 (ha)	(ha)	小計 (ha)	水田 (ha)	輪換耕地 (ha)	普通畑 (ha)	牧草畑 (ha)	果樹園 (ha)	(ha)	小計 (ha)	(ha)	
区画整理	－	－	5.27	－	0.28	1.12	6.67	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	6.67	()は、区画整理と重複で内数
計	－	－	5.27	－	0.28	1.12	6.67	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	6.67	

第2節　営農計画及び土地利用計画

1. 営農計画の概要

本地区は、現在施設園芸による野菜、果樹栽培がされているが、中山間地で農地の大半が未整備のため、営農者の高齢化による担い手不足などにより耕作放棄地が増加している。一方、若手を中心に規模拡大の意向を持った営農者が複数名いる。

中山間地域の農地確保と施設園芸を主とする営農意欲の高い担い手の農作業の効率化のため、区画整理を実施することで、担い手への農地の集積・集約を推進し、収益性の高い営農により地域農業の発展と競争力の高い農業の実現を図る。

2. 土地利用区分

（第9表 － 1）

目的	土地利用区分 / 区分	水　田 (ha)	普通畑 (ha)	牧草畑 (ha)	果樹園 (ha)	茶　園 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備　考
区画整理	現　況		5.27		0.28		1.12	6.67	
	計　画		3.21		2.25		1.21	6.67	
計	現　況		5.27		0.28		1.12	6.67	
	計　画		3.21		2.25		1.21	6.67	

3. 作付方式

（第9表 － 2）

事業名	項目	経営類型	土地利用区分	1年目 1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	2年目 1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	3年目 1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	備考
農地中間管理機構関連農地整備事業	現況	小ネギ	畑		○	→		→		■	→						○	→		→		■	→						○	→		→		■	→					は種 ○
		ミニトマト	畑			○		△		■	→							○		△		■	→							○		△		■	→					
		ほうれんそう	畑										○		■	→									○		■	→									○		■	定植 △
		みかん																																						
		（にじゅうまる）	畑	■											■	→											■	→											■	収穫 ■
	計画	小ネギ	畑		○	→		→		■	→						○	→		→		■	→						○	→		→		■	→					は種 ○
		アスパラガス	畑				△										■	→					→						■	→					→					
		みかん																																						
		（にじゅうまる）	畑		△																						■												■	定植 △
		（根域制限）	畑		△																																	■	→	収穫 ■

4. 生産計画

（第9表 － 3）

事業名	項目 / 土地利用区分		作物名 現況A=2.3ha 計画A=5.0ha	作付面積 (ha)			作付率 (%)		単位面積当たり収量 (kg/10a)			生産量 (t)			同左生産量増減の内訳 (t)		備考
				現況	計画	増減	現況	計画	現況	計画	増減	現況	計画	増減	面積増減	単位面積当たり収量増加	
農地中間管理機構関連農地整備事業	畑 （現況）2.1 ha （計画）3.1 ha	表作	小ネギ	1.4	0.7	△ 0.7	66.7	22.6	3,095	3,095	－	43.3	21.7	△ 21.6	△ 21.6		
			ミニトマト	0.4		△ 0.4	19.0		5,167	5,167	－	20.7		△ 20.7	△ 20.7		
			ほうれんそう	0.3		△ 0.3	14.3		740	740	－	2.2		△ 2.2	△ 2.2		
			アスパラガス		2.4	2.4		77.4	2,188	2,188	－		52.5	52.5	52.5		
			小計	2.1	3.1	1.0	100.0	100.0									
		裏作															
			小計														
	計			2.1	3.1	1.0	100.0	100.0									
	樹園地 （現況）0.2 ha （計画）1.9 ha		みかん(にじゅうまる)	0.2	0.7	0.5	100.0	36.8	2,512	2,308	△ 204	5.0	27.7	22.7	22.7	△ 204.0	
			みかん(根域栽培)		1.2	1.2		63.2	2,512	3,309	797		23.2	23.2	23.2	797.0	
	計			0.2	1.9	1.7	100.0	100.0									
合計				2.3	5.0	2.7											

面積は本地面積で記載

5. 労働改善計画

（第9表 － 4）

事業名	項目 / 土地利用区分	作物名	作付面積(ha)	単位面積当たり労働投下量（hr/ 10 a）				備考
				区分	現況	計画	増減	
農地中間管理機構関連農地整備事業	畑	小ネギ	0.7	人力	950	950	－	①既に作業の機械化がなされている施設園芸の営農体系に対し、本事業が労働投下量に与える効果は小さく、検討が困難なため増減なし。 ②営農経費節減効果では、みかん（根域制限）を挙げているが、現況の作付けはないため本表の労働投下量は増減なし。 ※本事業における営農経費節減効果は、一般的な露地みかんと比較し、農地整備により作業の機械化（動力噴霧機、スピードスプレイヤー等）がなされる、根域制限農法を導入することで効果が現れるとしている。
				機械力	300	300	－	
		アスパラガス	2.4	人力	－	864	－	
				機械力	－	216	－	
		計	3.1					
	樹園地	みかん(にじゅうまる)	0.7	人力	387	387	－	
				機械力	59	59	－	
		みかん（根域栽培）	1.2	人力		200	－	
				機械力		67	－	
		計	1.9					
合計			5.0					

6. 級地別土地利用区分　　該当なし

7. 土地配分計画　　該当なし

第3節 用水計画

1. 計 画 基 準 年　昭和35年(県営ほ場整備事業 浜玉地区に準じる)

2. 計画かんがい方式 湛水かんがい　かんがい期間6月1日～9月30日(露地), かんがい期間12月1日～9月30日(ハウス)

3. 計 画 用 水 系 統　別添図面参照

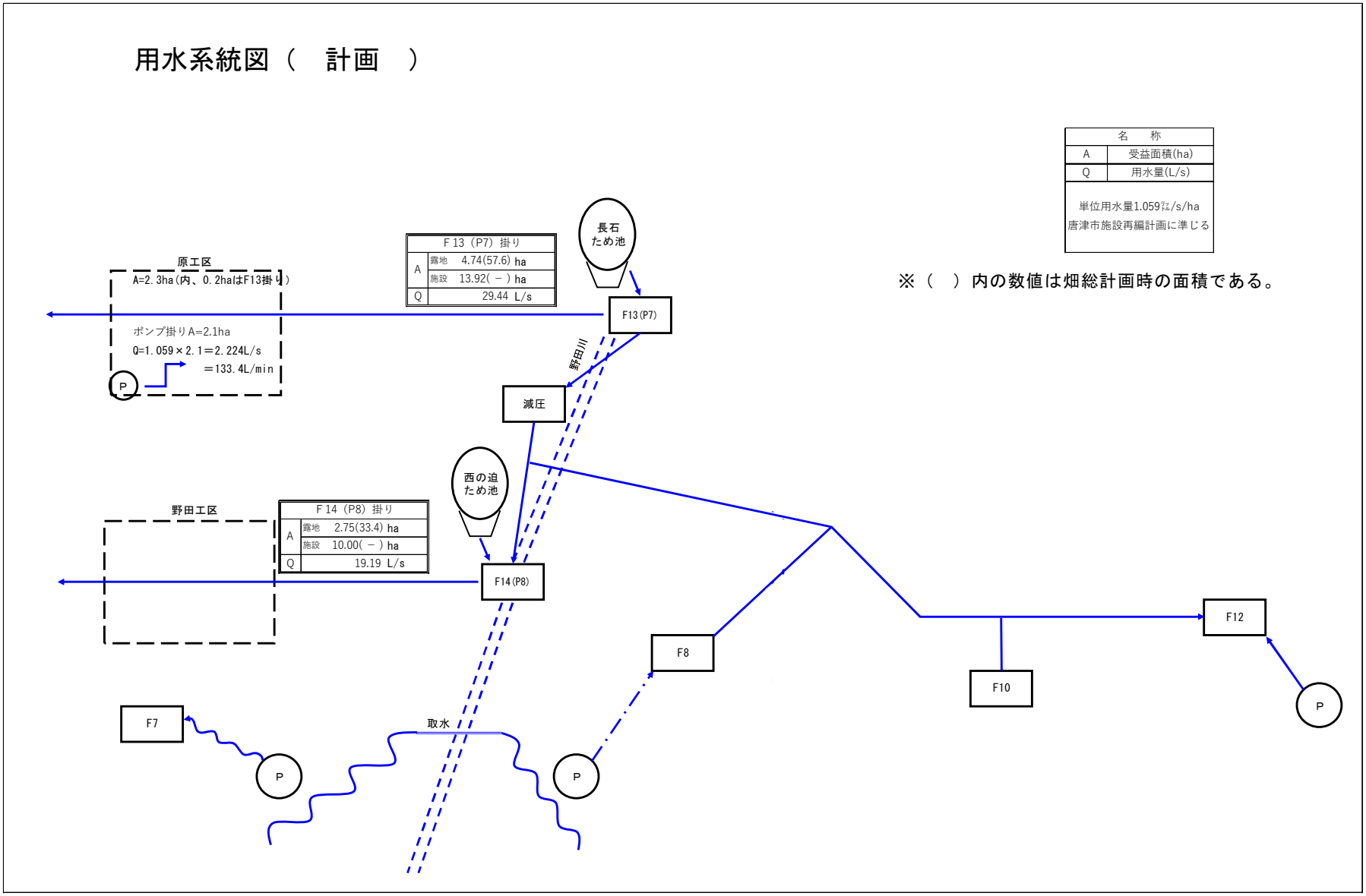
4. 計 画 用 水 量

(1) かんがい用水　　(第10表 － 1 － 1)

項目 / 系統名	種別	面積(ha) 事業名	水田かんがい			水田畑利用			畑地かんがい			その 他		消費水量	損失率	粗用水量		備考
			普通期	代かき期														
		区画整理	計画平均単位用水量 (mm/日)	計画代掻単位用水量 (mm/日)	面積 (ha)	1日当たり計画平均かん水深 (mm/日)	平均間断日数 (日)	面積 (ha)	1日当たり計画平均かん水深 (mm/日)	平均間断日数 (日)	面積 (ha)	計画平均単位用水量 (mm/日)	面積 (ha)	(m3/s)	(%)	平均 (m^3/s)	最大 (m^3/s)	
P7 (原工区)	農業用水	2.3							露地 3 施設 5	7 6	1.2 0.7				25			面積(事業名)は受益面積である
P8 (野田工区)	農業用水	3.2							露地 3 施設 5	7 6	0.0 3.1				25			面積(事業名)は受益面積である

(2)営農飲雑用水　　該 当 な し

【 計画用水系統模式図 】


用水系統図（　計画　）
名　称
A　受益面積(ha)
Q　用水量(L/s)
単位用水量1.059ℓ/s/ha
唐津市施設再編計画に準じる
※（　）内の数値は畑総計画時の面積である。
F 13 (P7) 掛り
A　露地　4.74(57.6) ha
施設　13.92(－) ha
Q　29.44 L/s
長石
ため池
原工区
A=2.3ha(内、0.2haはF13掛り)
ポンプ掛りA=2.1ha
Q=1.059×2.1＝2.224L/s
＝133.4L/min
P
F13(P7)
野田川
減圧
西の迫
ため池
野田工区
F 14 (P8) 掛り
A　露地　2.75(33.4) ha
施設　10.00(－) ha
Q　19.19 L/s
F14(P8)
F12
F8
F10
P
F7
取水
P
P

5. 水源計画

(1) 水利用計画　　該 当 な し

(2) 用水対策

(ｱ) 貯 水 池　　該 当 な し

(ｲ) 井堰及び自然取入口　　該 当 な し

(ｳ) 揚水機　　該 当 な し　　（第10表 － 5）

項目 / 名称	水源名	かんがい面積 (ha)			所要水量(m3/s)		揚水機				備考
		事業名			最大	平均	実揚程 (m)	揚水量 (m3/s)	台数 (台)	全揚水量 (m3/s)	
		区画整理		計							

(ｴ) 用 水 路　　（第10表 － 6）

項目 / 名称	かんがい面積 (ha) 事業名 区画整理		計	最大通水量 (m3/s)	延長 (m)	構造	備考
パイプライン							既設管の撤去復旧(地区内配管)であるため通水量の欄は未記入
野田工区 P8	3.28		3.28		600	塩化ビニール管 φ100mm	
原工区 P7	0.37		0.37		600	塩化ビニール管 φ100mm	
小計	3.65		3.65		1,200		
井戸							
原工区	1.90		1.90	0.002	100	掘進径 φ150	
						ポンプ φ100	
小計	1.90		1.90		100		
合計	5.55		5.55		1,300		

(ｵ) その他の水源施設

(3) 水温水質　　該 当 な し

第4節　排水計画

1. 計画基準雨量　　72.0 mm/hr　（1／10年確率）

2. 計画排水方式　　自然排水

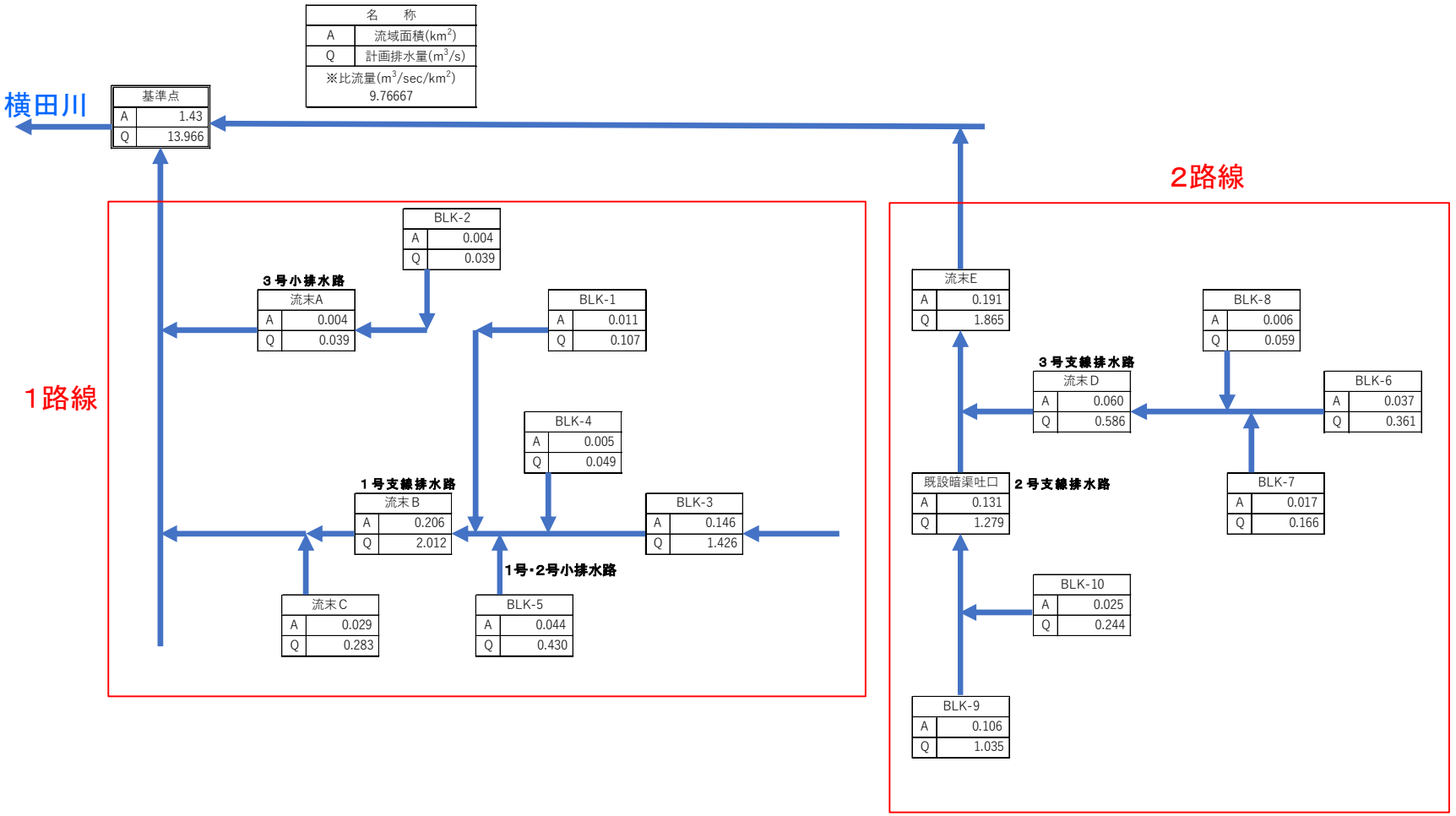
3. 計画排水系統　　別紙図面参照

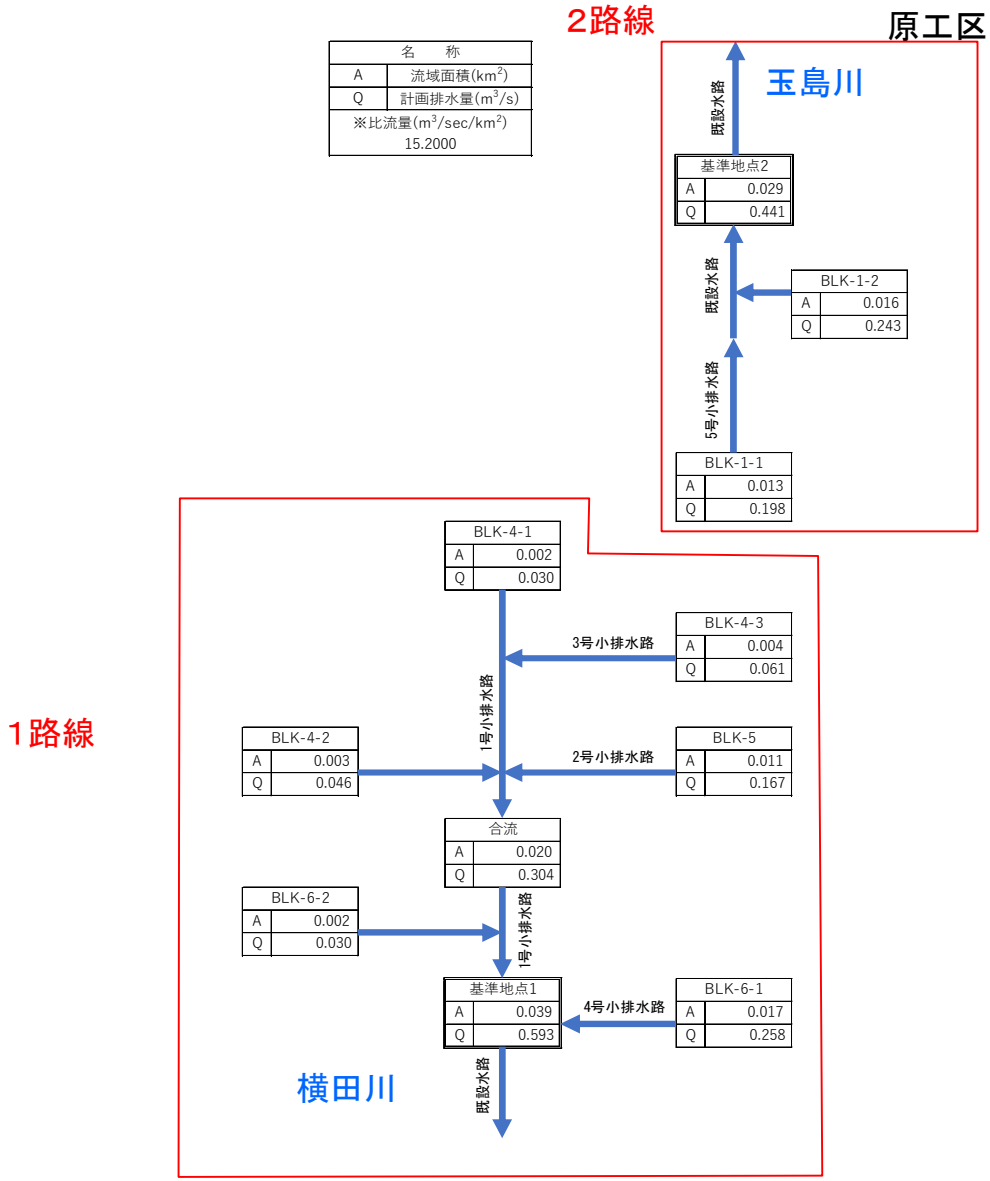
4. 計画排水量　　（第11表－1）

項目 ＼ 排水系統名	受益面積（ha） 事業名 区画整理		計	流域面積（ha） 山地	流域面積（ha） 平地	基準雨量 (mm)	降雨による直接単位流出量（$m^3/s/ha$） 山地	降雨による直接単位流出量（$m^3/s/ha$） 平地	基底流出量（$m^3/s/ha$） 山地	基底流出量（$m^3/s/ha$） 平地	全排水量（m^3/s） 山地	全排水量（m^3/s） 平地 自然排水	全排水量（m^3/s） 平地 機械排水	単位排水量（$m^3/s/ha$） 山地	単位排水量（$m^3/s/ha$） 平地	備考
玉島川																
（野田工区）	3.28		3.28	―	40.1	240	―	9.8	―	―	―	3.9	―	―	9.8	
（原工区）	2.27		2.27	―	6.8	240	―	15.2	―	―	―	1.0	―	―	15.2	
計	5.55		5.55	―	46.9	―	―	25.0	―	―	―	4.9	―	―	25.0	

【 計画排水系統模式図 】

野田工区




2路線
原工区
名　称
A　流域面積(km²)
Q　計画排水量(m³/s)
※比流量(m³/sec/km²)
15.2000
玉島川
既設水路
基準地点2
A 0.029
Q 0.441
既設水路
BLK-1-2
A 0.016
Q 0.243
5号小排水路
BLK-1-1
A 0.013
Q 0.198
1路線
BLK-4-1
A 0.002
Q 0.030
3号小排水路
BLK-4-3
A 0.004
Q 0.061
1号小排水路
BLK-4-2
A 0.003
Q 0.046
2号小排水路
BLK-5
A 0.011
Q 0.167
合流
A 0.020
Q 0.304
BLK-6-2
A 0.002
Q 0.030
1号小排水路
基準地点1
A 0.039
Q 0.593
4号小排水路
BLK-6-1
A 0.017
Q 0.258
横田川
既設水路

5. 排水対策

(1) 排水水門　　該当なし

(2) 排水機　　該当なし

(3) 排水路　　（第11表－4）

項目 / 名称	流域面積 (ha)	受益面積 (ha) 事業名 区画整理 (ha)		受益面積 (ha) 計	計画排水量 (m^3/s)	延長 (m)	構造	排水本川 名称	計画洪水量 (m^3/s)	計画洪水位 (m)	備考
(野田工区)											
1号支線排水路	20.60	1.44		1.44	2.1	146	三面水路 B=2.0m,H=1.0m	玉島川	―	―	
1号小排水路	－	－		－	－	128	U字側溝 U300	玉島川	―	―	
2号小排水路	－	－		－	－	86	U字側溝 U300	玉島川	―	―	
2号支線排水路	13.10	1.22		1.22	1.4	208	三面水路 B=1.0m,H=1.0m	玉島川	―	―	
3号支線排水路	6.00	0.38		0.38	0.6	114	三面水路 B=1.0m,B=0.6m	玉島川	―	―	
3号小排水路	0.40	0.24		0.24	0.0	130	U字側溝 U300	玉島川	―	―	
小計	40.10	3.28		3.28		812					
(原工区)											
1号小排水路	2.20	1.14		1.14	0.6	159	U字側溝 U360	玉島川	―	―	
2号小排水路	－	－		－	0.2	174	U字側溝 U300	玉島川	―	―	
3号小排水路	－	－		－	0.1	100	U字側溝 U450	玉島川	―	―	
4号小排水路	1.70	0.41		0.41	0.3	177	U字側溝 U600	玉島川	―	―	
5号小排水路	2.90	0.72		0.72	0.2	144	U字側溝 U450	玉島川	―	―	
									―	―	
小計	6.80	2.27		2.27		754					
合　計	46.90	5.55		5.55		1,566					

受益面積は、本事業における工区毎の受益面積

(4) その他　　該当なし

6. 湛水検討　　該当なし

第5節 道路計画

1. 道路及び索道

(1) 道 路

（第12表 － 1）

項目 / 路線名	幅（有効）(m)	×	延長 (m)	構造	既設道路との関係	備考
(野田工区)						
1号支線道路	4.0(3.0)	×	246	アスファルト舗装舗装	市道 桑原～野田線改修	
2号支線道路	4.0(3.0)	×	149	アスファルト舗装舗装	新設農道	
1号耕作道路	3.0(2.5)	×	43	砂利舗装舗装	新設農道	
2号耕作道路	3.0(2.5)	×	30	砂利舗装舗装	新設農道	
3号耕作道路	3.0(2.5)	×	97	砂利舗装舗装	新設農道	
4号耕作道路	3.0(2.5)	×	45	砂利舗装舗装	新設農道	
小計			610			
(原工区)						
1号支線道路	5.0(4.0)	×	179	アスファルト舗装舗装	既設農道改修	
2号支線道路	5.0(4.0)	×	168	アスファルト舗装舗装	新設農道	
3号支線道路	5.0(4.0)	×	135	アスファルト舗装舗装	既設農道改修	
1号耕作道路	3.0(2.5)	×	23	砂利舗装舗装	新設農道	
小計			505			
計			1,115			

(2) 索 道　　該 当 な し

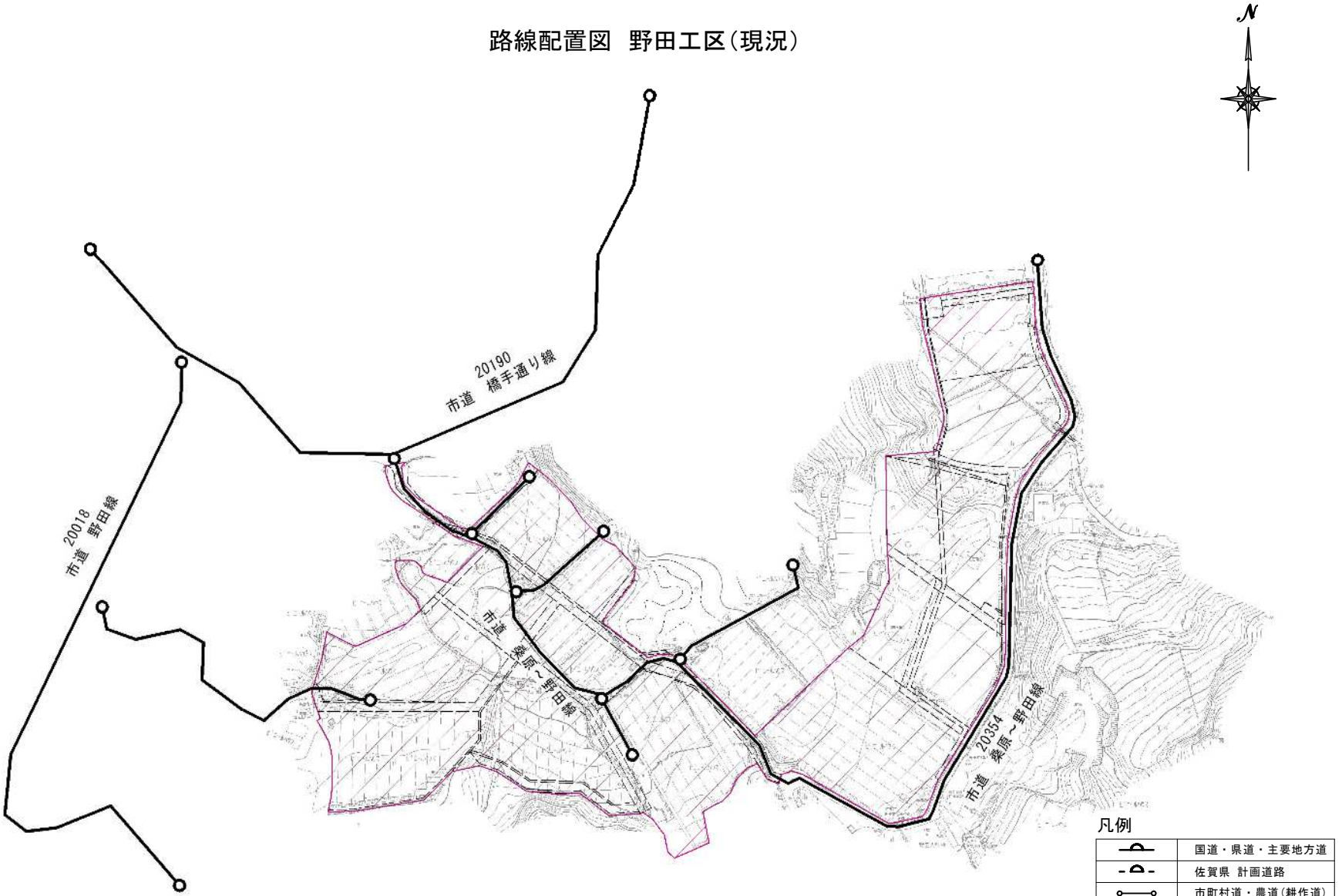
2. 路線配置図　　別紙図面参照

第6節　農用地造成計画

1. 農用地造成計画　　該 当 な し

2. 土壌改良　　該 当 な し

路線配置図　野田工区（現況）



路線配置図　原工区(現況)

凡例

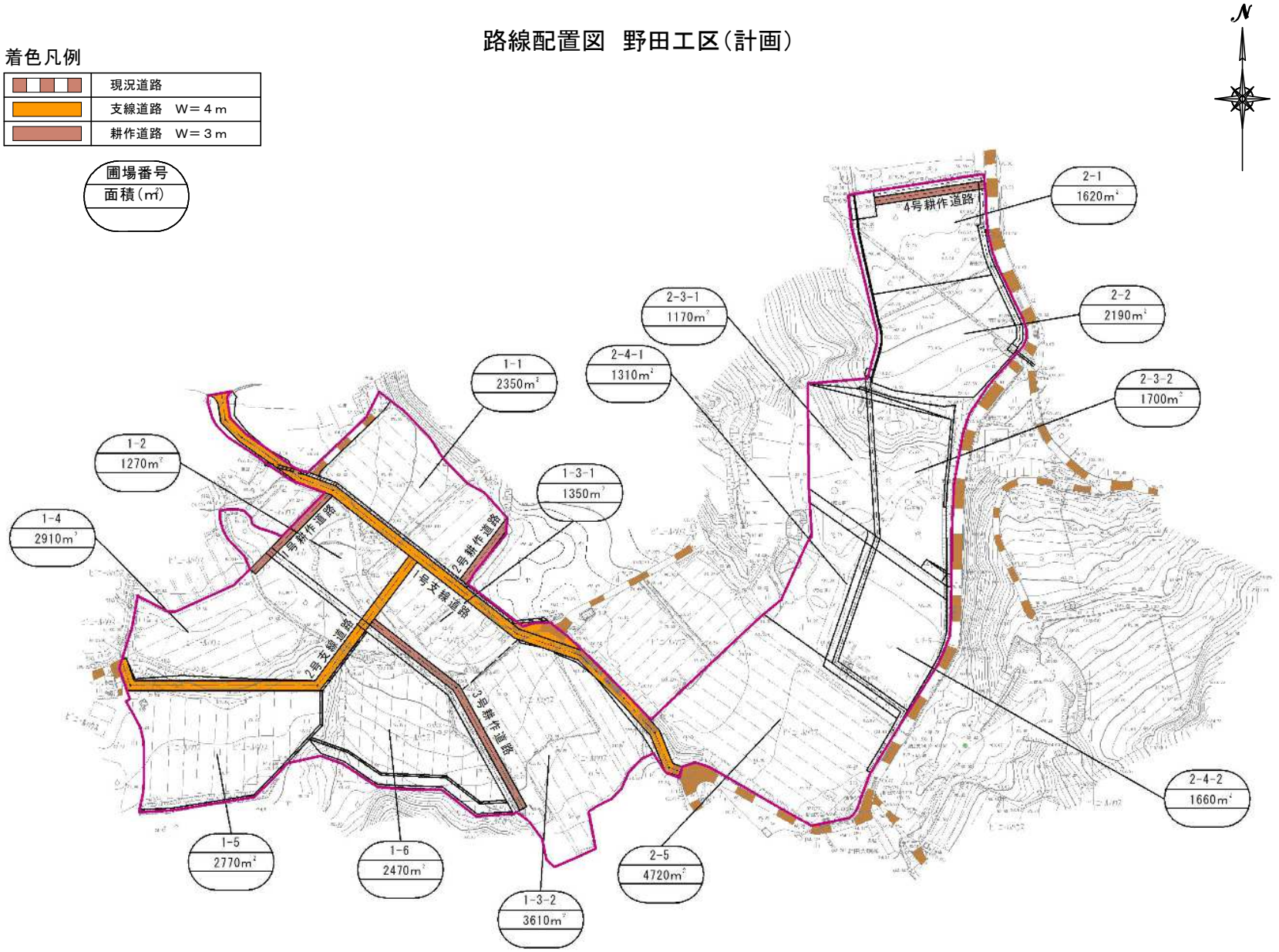
	国道・県道・主要地方道
	佐賀県 計画道路
	市町村道・農道(耕作道)
	関連事業道路
	受益区域
	市町村界

路線配置図　野田工区（計画）

着色凡例

	現況道路
	支線道路　W＝４ｍ
	耕作道路　W＝３ｍ

圃場番号
面積（㎡）

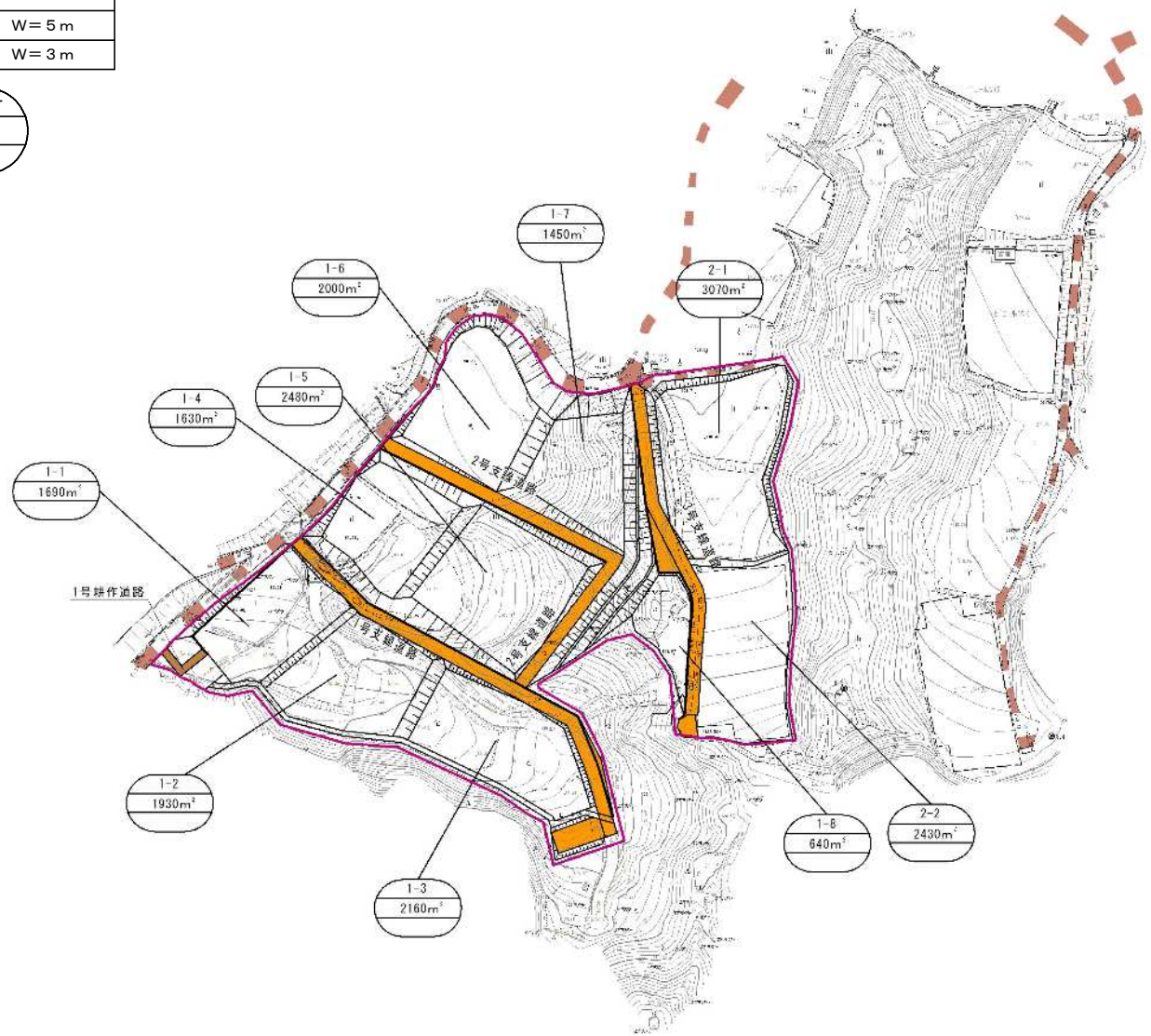


路線配置図　原工区（計画）

着色凡例

	現況道路
	支線道路　W＝５ｍ
	耕作道路　W＝３ｍ

圃場番号
面積（㎡）



第7節　洪水調節計画

1. 計画基準雨量　　該当なし
2. 計画洪水量及び調節量　　該当なし
3. 貯水池　　該当なし
4. 洪水調節検討　　該当なし
5. 管理計画　　該当なし

第8節　干拓計画　　該当なし

第9節　農用地整備計画

1. 区画整理

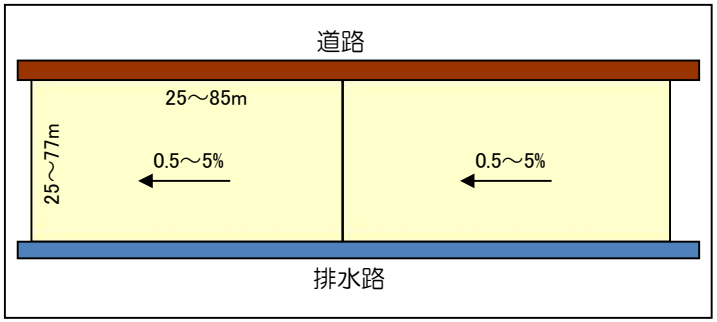
(1) 区画の形状　　（表16－1）

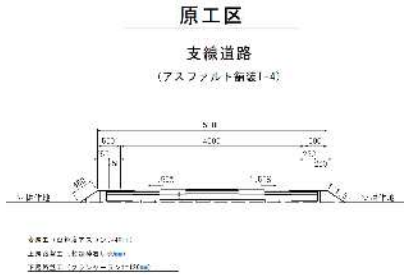
長辺×短辺（m）	区画面積（ha）	全体面積（ha）	割　合（％）	標　高（m）	備　　考
(野田工区)					
50m×20m	0.1	0.42	8		
50m×40m	0.2	1.00	18		標準区画75m×40m=30a
75m×40m	0.3	0.90	16	61～87	
80m×50m	0.4	0.42	8		
100m×50m	0.5	0.50	9		
(原工区)					
40m×25m	0.1	0.11	2		標準区画75m×40m=30a
80m×25m	0.2	1.00	18	81～125	
75m×40m	0.3	1.20	22		
計		5.55			

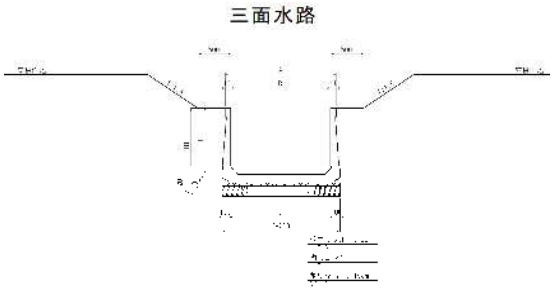
(2) 表土扱い　　（表16－2）

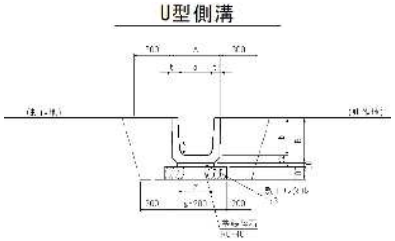
面　積（ha）	表土扱い要否の理由	扱い深（cm）	土　量（m^3）	備　　考

(3) 末端道水路配置図









4. 用 水 路

（第17表 － 4）

項目 ＼ 水路名	かんがい面積（ha） 事業名 区画整理		計	通水量 (m^3/s)	延長（m） 開きょ	トンネルその他	計	構造	勾配	主要構造物	備考
野田工区 P8	3.28		3.28			600	600	塩化ビニール管Φ100mm			既設管の撤去復旧（地区内配管）であるため通水量の欄は未記入
原工区 P7	0.37		0.37			600	600	塩化ビニール管Φ100mm			
〃 井戸	1.90		1.90	0.002		100	100	掘進径φ150 ポンプφ100			
小計	5.55		5.55				1,300				
合計	5.55		5.55	－			1,300				

5. その他かんがい施設　　該当なし

第2節　排水施設

1. 排水水門　　該当なし

2. 排 水 機　　該当なし

2. 暗渠排水　該当なし
3. 客　土　該当なし
4. 農地保全　該当なし
5. 農業用水(雑用水施設)　該当なし

第10節　老朽ため池改修計画
1. 計画基準雨量　該当なし
2. 計画洪水量　該当なし
3. 施設整備計画　該当なし

第5章　主要工事計画
第1節　用水施設
1. 貯水地　該当なし
2. 頭首工　該当なし
3. 揚水機　該当なし

3. 排 水 路

（第18表 － 3）

項目 ＼ 水路名	受益面積 (ha) 事業名 区画整理		計	排水量 (m^3/s)	延長 (m) 開きょ	トンネル その他	計	構造	勾配	主要構造物	備考
(野田工区)											
1号支線排水路	1.44		1.44	2.1	146		146	B=2.0m,H=1.0m	1/50		
1号小排水路	－		－	－	128		128	U300	レベル		
2号小排水路	－		－	－	86		86	U300	レベル		
2号支線排水路	1.22		1.22	1.4	208		208	B=1.0m,H=1.0m	1/40		
3号支線排水路	0.38		0.38	0.6	114		114	B=1.0m,B=0.6m	1/20		
3号小排水路	0.24		0.24	0.0	130		130	U300	1/30		
小計	3.28		3.28		812		812				
(原工区)											
1号小排水路	1.14		1.14	0.6	159		159	U360	1/20		
2号小排水路	－		－	0.2	174		174	U300	1/20		
3号小排水路	－		－	0.1	100		100	U450	1/20		
4号小排水路	0.41		0.41	0.3	177		177	U600	1/20		
5号小排水路	0.72		0.72	0.2	144		144	U450	1/13		
小計	2.27		2.27		754		754				
計	5.55		5.55		1,566		1,566				

4. その他排水施設　　該当なし

第3節　道路及び索道

1. 道　　路

(1) 道路の総括表

（第19表－1）

項目 / 区分	路線名	幅(有効)(m)×延長(m)	構造	附帯構造物			最急こう配(%)	同左の延長(m)	最小曲線半径(m)	備考
				名称	構造	数量(箇所)				
(野田工区)										
支線道路	1号	4.0(3.0) × 246	アスファルト	暗渠工			12.0%	246		
支線道路	2号	4.0(3.0) × 149	アスファルト	暗渠工	2.0×1.0	1	0.9%	149		
耕作道路	1号	3.0(2.5) × 43	砂利	暗渠工	2.0×1.0	1	レベル	43		
耕作道路	2号	3.0(2.5) × 30	砂利	暗渠工	0.3×0.3	1	レベル	30		
耕作道路	3号	3.0(2.5) × 97	砂利	暗渠工			10.0%	97		
耕作道路	4号	3.0(2.5) × 45	砂利	暗渠工	1.0×0.6	1	1.0%	45		
小計		610						610		
(原工区)										
支線道路	1号	5.0(4.0) × 179	アスファルト	暗渠工	0.36×0.36,0.6×0.6	2	12.0%	179		
支線道路	2号	5.0(4.0) × 168	アスファルト	暗渠工	0.36×0.36	1	10.0%	168		
支線道路	3号	5.0(4.0) × 135	アスファルト	暗渠工			10.0%	135		
耕作道路	1号	3.0(2.5) × 23	砂利	暗渠工			レベル	23		
小計		505						505		
計		1,115						1,115		

(2) 道路主要構造物　該 当 な し
2. 索　　道　　該 当 な し

第4節　農用地造成

1. 農用地造成　　該 当 な し
2. 土壌改良　　該 当 な し

第5節　洪水調節施設

1. 貯 水 池　　該 当 な し
2. 頭首工及び導水路　該 当 な し

第6節　干拓施設　　該 当 な し

第7節　農用地整備施設

1. 区 画 整 理

(1) 区 画 整 理　　（第23表 － 1）

工　区　名	面　積 (ha)	整　地　工		表　土　扱　い		備　　考
		標 準 区 画	土　量 (m^3)	面 積 (ha)	土　量 (m^3)	
野田工区	3.28	30a	19,400	－	－	
原工区	2.27	30a	39,607	－	－	

(2) 末端用水路等　　該 当 な し

(3) 末端排水路等　　該 当 な し

2. 暗 渠 排 水

3. 客　　土　　該 当 な し

4. 除　　礫　　該 当 な し

5. 農地保全　　該 当 な し

6. 農業用水(雑用水施設)　該 当 な し

第8節　老朽ため池改修施設

1. 貯　水　池　　該 当 な し
2. 堤体補強施設　　該 当 な し

第6章　附帯工事計画　　該 当 な し

第7章　工事の着手及び完了の予定時期　　令和7年度～令和12年度

第8章　環境との調和への配慮　　該 当 な し

第9章　換地計画の概要

第1節　換地計画を作成する上での基本的な考え方

各農家の各所に分散する農用地の集団化、その他農業構造の改善及び処分の早期完了を図るため、工事着手前において換地計画に関する基礎調査及び換地設計基準を作成し、換地区の換地計画原案を作成する事前換地とする。なお、換地計画原案樹立にあたっては、地区内農家の意向や農地中間管理権の設定状況を反映し、地域における農業振興計画及び土地利用計画との調整を関係機関と十分協議し作成する。

第2節　換地区の設定

1. 換地区の名称、所在、面積　（第25表 － 1）

換 地 区 名	換 地 区 の 所 在	面　　積 （ha）
野田工区	唐津市浜玉町東山田	3.71 （37,069㎡）
原工区	〃	2.97 （29,674㎡）

2. 換地区を設定する理由

事業工区に合わせて計画的に換地処分を行うため2換地工区を設定する。

第3節　換地計画樹立の基本方針

1. 従前の土地の地積の基準　（第25表 － 2）

換 地 区 名	地　　積　　の　　基　　準
野田工区	換地交付の基準とする従前の土地の地積は、土地改良事業計画決定の日の登記簿地積とする。ただし、上記の日から6ヶ月以内に測量士、測量士補または土地家屋調査士の測量した実測図及び隣接所有者の同意書を添付して申出があった場合には、その申出のあった地積とする。
原工区	換地交付の基準とする従前の土地の地積は、土地改良事業計画決定の日の登記簿地積とする。ただし、上記の日から6ヶ月以内に測量士、測量士補または土地家屋調査士の測量した実測図及び隣接所有者の同意書を添付して申出があった場合には、その申出のあった地積とする。

2. 用途別予定地積

（単位：ha）　（第25表－3）

換地区名	用途（取得予定者）／前後	非農用地区域外に換地する土地(ha)												非農用地区域に換地する土地(ha)										機能交換に係る土地(ha)				一般国公有地	総合計（ha）
		田	畑	山林・原野	その他	通常事業施行地域に含める土地（令第1条の9( )書き）			計	本事業によって生ずる土地改良施設用地			創設農用地	合計	特定用途用地			異種目換地	創設非農用地				合計	国	県	市町村他	合計		
						土地改良施設	その他	小計		改良区	その他	計			宅地	その他	計		農業経営合理化施設用地	生活上・経営上必要な施設用地	公用・公共用地施設用地	宅地等	計							
野田工区	従前の土地		3.28	0.20	0.02				3.50					3.50												0.21	0.21		3.71
	換地		3.28						3.28					3.28												0.42	0.42		3.71 (37,069㎡)
原工区	従前の土地		2.27	0.51	0.004				2.78					2.78												0.19	0.19		2.97
	換地		2.27						2.27					2.27												0.70	0.70		2.97 (29,674㎡)
合計	従前の土地		5.55	0.71	0.02				6.28					6.28												0.40	0.40		6.67
	換地		5.55						5.55					5.55												1.12	1.12		6.67 (66,743㎡)

3. 農用地集団化の方針

（第25表－4）

区分／換地区名	地帯別、グループ別団地の設定	個人別換地の方法		
		位置の選択方法	1戸当たり目標団地数	区画畦畔の取扱い
野田工区	集落別 作物別 集団化	各人の従前の土地が最も密集した位置を中心として概ねその付近に換地する。 換地の選定は、農地中間管理権の集積を考慮しながら、担い手への集団化を図る上で、最も適当な位置を選定する。	概ね1団地を目標とする。	―
原工区				

4. 非農用地の換地方法

該当なし

第4節　土地の評価及び清算の方法

1. 評価の方法　　増減点方法
2. 清算の方法　　比例地積清算方法

第5節　換地計画樹立の年度計画

（第25表 － 6）

区　分 換地区名	一時利用地の 指定予定年度	換地計画の 決定予定年度	換地処分 予定年度	備　　考
野田工区	令和7年度	令和12年度	令和12年度	
原工区	令和7年度	令和12年度	令和12年度	

第6節　換地処分の時期に関する特則

該当なし

第10章　事業費の総額及び内訳　　（第 26 表）

事業名 / 区分		農地中間管理機構関連農地整備事業	（千円）	備考
主要工事		・本工事費	353,800	令和6年度単価
		（整地工）	117,500	A=5.5ha
		（道路工）	21,300	L=1115m（支線道路877m　耕作道路238m）
		（用水路工）	19,800	L=1200m（パイプライン）
		（用水路工）	20,000	N=1箇所（井戸・ポンプ）
		（排水路工）	175,200	L=468m（三面水路）L=1098m（U字溝）沈砂池
		・測量試験費	23,000	
		・用地補償費	8,000	
		・換地費	30,000	
計			414,800	
		・事務的経費	20,500	工事雑費＋事務費
合計			435,300	
関連事業（参考）				

（第 27 表）

事業名	項目／区分	年総効果(便益)額（千円）	年増加農業所得額（千円）	現況年総農業所得額(千円)	備　考
農地中間管理機構関連農地整備事業	食料の安定供給の確保に関する効果	27,851	31,515		作物生産効果、品質向上効果、営農経費節減効果、維持管理節減効果、営農に係る走行経費
	農業の維持発展に関する効果	−	−		災害防止効果(農業)
	農村の振興に関する効果	−	−		災害防止効果(一般資産)、非農用地等創設効果
	多面的機能の発揮に関する効果	−	−		災害防止効果(公共資産)、水源かん養効果
	その他効果	2,479	−		国産農産物安定供給効果
	計	30,330	31,515	13,907	令和6年度単価

（参考）

総便益(現在価値化)　＝　**537,470** 千円

※評価期間内で発生する効果額

総費用(現在価値化)　＝ 当該事業＋関連事業費　＝　347,559 千円　＋　67,798 千円　＝　**415,357** 千円

※評価期間内に必要な整備費

年償還額　（うち機能向上分）　＝　**0** 千円

年増加農業所得額　＝　**31,515** 千円

評価期間 （当該事業の工事期間＋40年）　＝　46 年　うち、工事期間＝ 6 年

・総費用総便益比 ＝ 総便益(現在価値化) / 総費用(現在価値化) ＝ 537,470 千円 / 415,357 千円 ＝ **1.29** ≧ 1.00

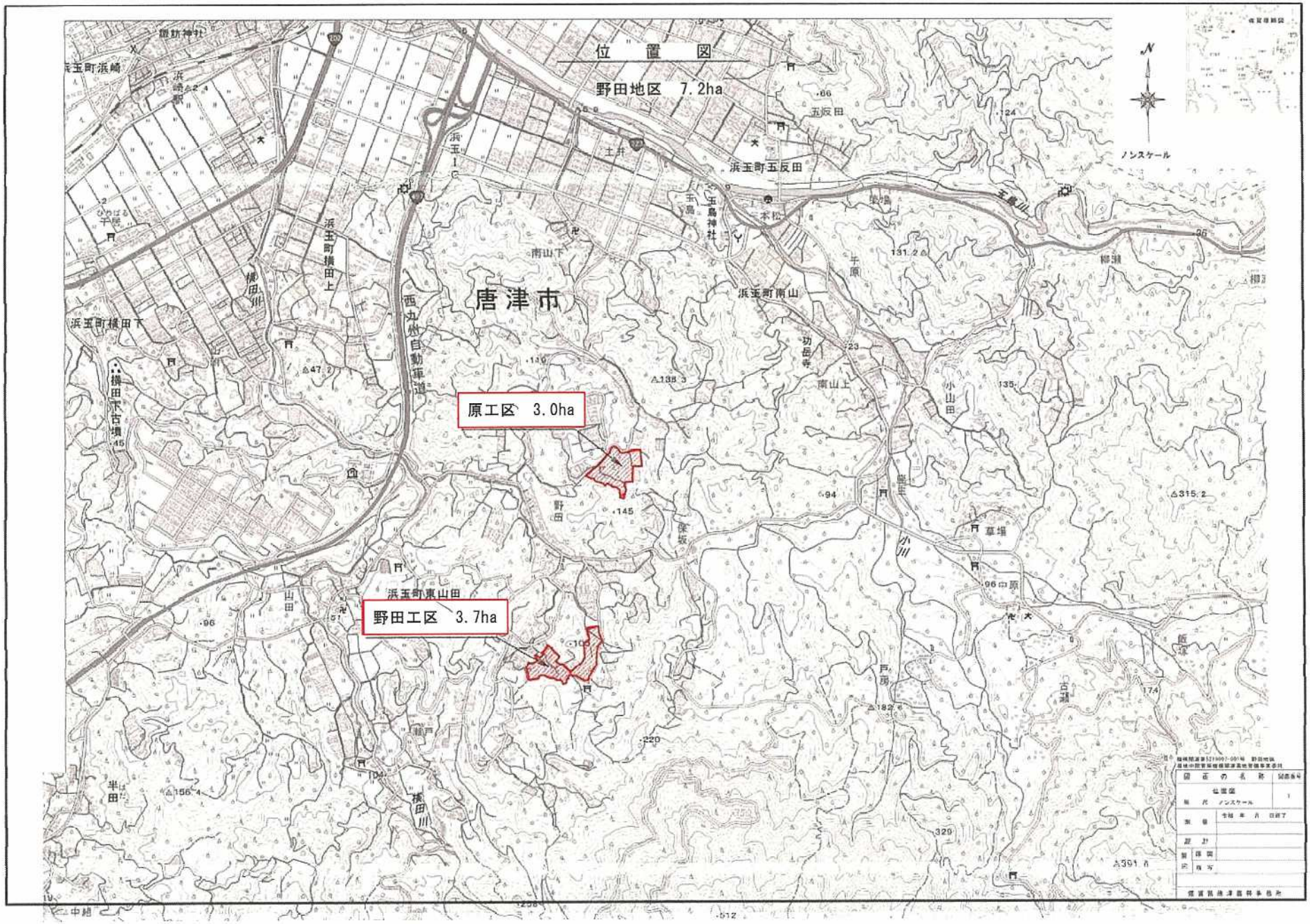
・増加所得償還率 ＝ 年償還額 / 年増加農業所得額 ＝ 0 千円 / 31,515 千円 ＝ **0.00** ≦ 0.4

第12章　　関連する事業

該当なし

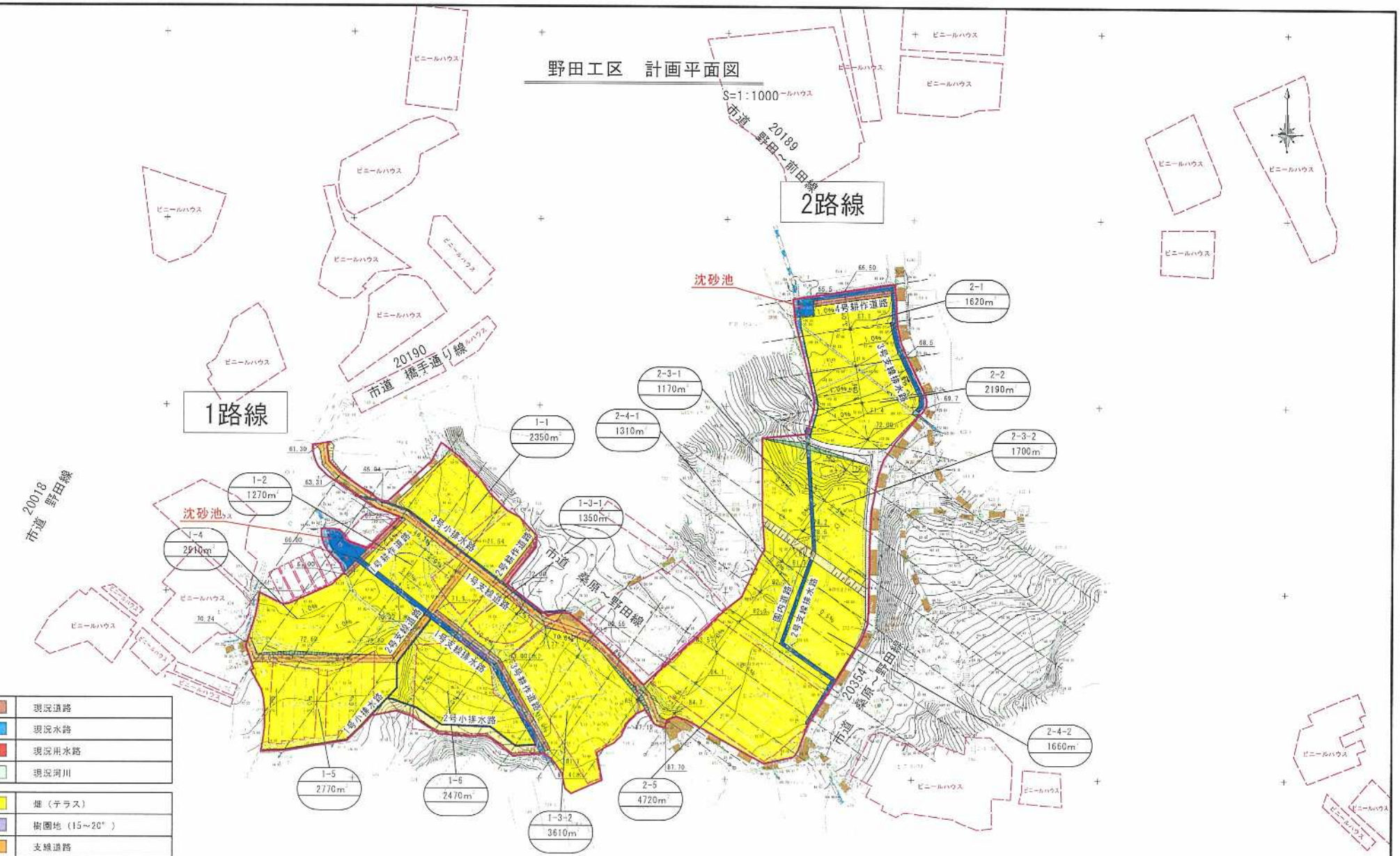
第13章　　現況・計画図面

計 画 一 般 平 面 図 及 び 主 要 構 造 図 …… 次ページ参照


位置図
野田地区　7.2ha
原工区　3.0ha
野田工区　3.7ha
唐津市
浜玉町浜崎
浜玉町五反田
浜玉町横田下
浜玉町南山
浜玉町東山田
西九州自動車道
横田川
ノンスケール

野田工区　計画平面図

S=1:1000



着色凡例

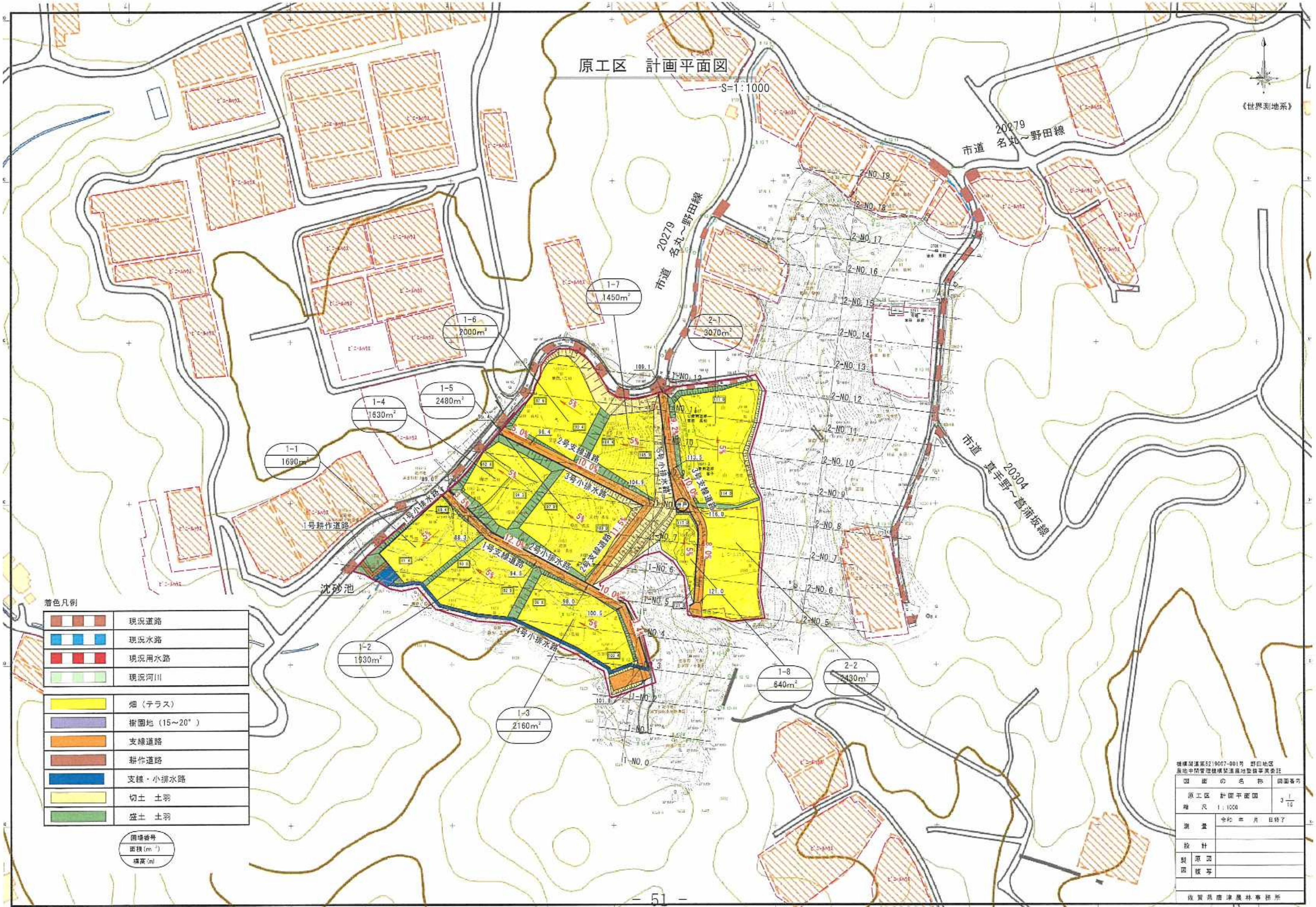
	現況道路
	現況水路
	現況用水路
	現況河川
	畑（テラス）
	樹園地（15～20°）
	支線道路
	耕作道路
	支線・小排水路
	切土　土羽
	盛土　土羽

圃場番号
面積(m²)
標高(m)

機構関連第3219002-001号　野田地区
農地中間管理機構関連農地整備事業委託

区　画　名　称	図面番号
野田工区　計画平面図 縮　尺　1:1000	1/2
測　量	令和　年　月　日終了
設　計	
製図 印図	
製図 複写	

佐賀県唐津農林事務所


原工区　計画平面図
S=1:1000
《世界測地系》
市道　20279　名丸～野田線
市道　20304　真手野～菖蒲坂線
1-1 1690m²
1-2 1930m²
1-3 2160m²
1-4 1530m²
1-5 2480m²
1-6 2000m²
1-7 1450m²
1-8 640m²
2-1 3070m²
2-2 2430m²
1号支線道路
2号支線道路
3号支線道路
1号耕作道路
1号小排水路
2号小排水路
3号小排水路
4号小排水路
5号小排水路
沈砂池
着色凡例
現況道路
現況水路
現況用水路
現況河川
畑（テラス）
樹園地（15～20°）
支線道路
耕作道路
支線・小排水路
切土　土羽
盛土　土羽
圃場番号
面積（m²）
標高（m）
機構関連第5219007-001号　野田地区
農地中間管理機構関連農地整備事業委託
図面の名称
図面番号
原工区　計画平面図
縮尺　1：1000
3 1/16
測量
令和　年　月　日終了
設計
製図
原図
複写
佐賀県唐津農林事務所

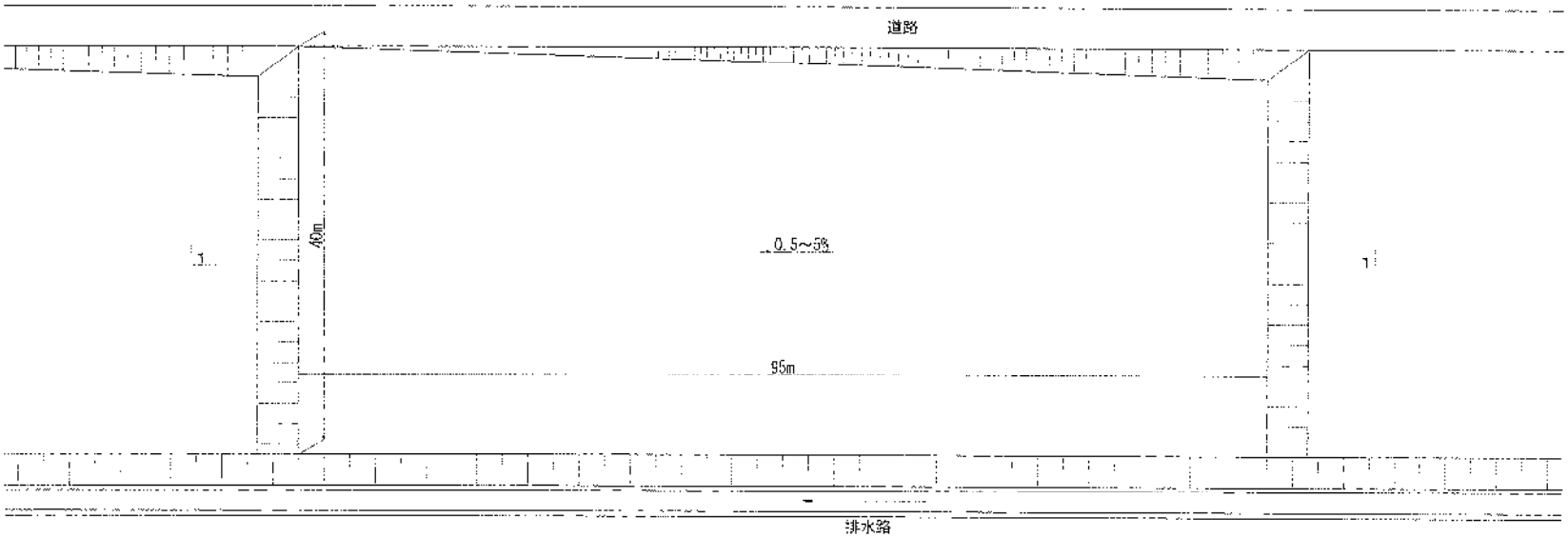
標　準　図（1）

整地工

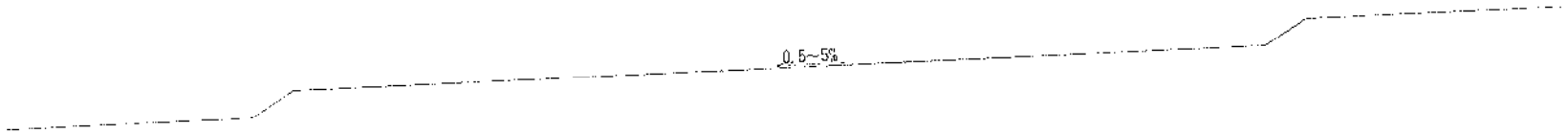
標準区画

S=1:250

平面図



1-1断面図



注　意　事　項

1　図中の寸法は特に示さない限りミリメートル単位である。

2．地形状、現場の土質状況に応じて基礎部を適宜変更すること。

図面の名称	図面番号
標準図（1）整地工	5-1
縮尺　S=1:250	
工期　平成　年　月　日終了	
設計	
製図	
検図	
佐賀県農業土木事務所	

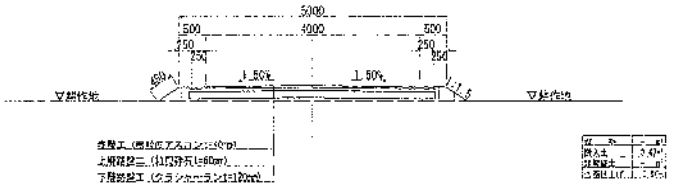
標 準 図 (2)

道路工

原工区

S=1:50

支線道路
(アスファルト舗装T-4)

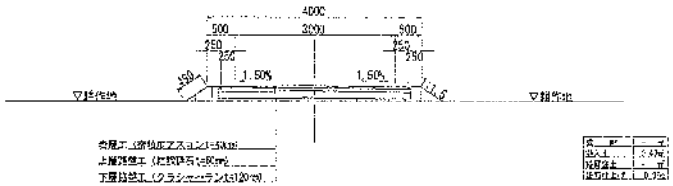


区分	m³
掘入土	3.47m³
残土	m³
法面仕上げ	0.95m²

野田工区

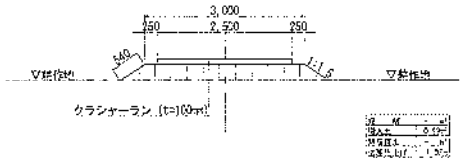
S=1:50

支線道路
(アスファルト舗装T-4)



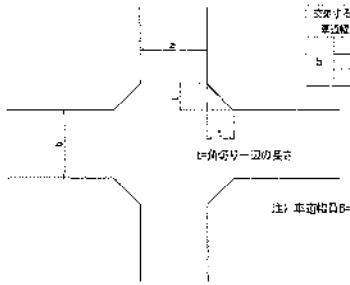
区分	m³
掘入土	3.47m³
残土	m³
法面仕上げ	0.95m²

耕作道路
(砂利舗装) S=1:50



区分	m³
掘入土	0.49m³
残土	m³
法面仕上げ	1.50m²

隅切標準図



変更する長辺の車道幅員(m)		a		
		3	4	5
b	3	2.0	1.5	1.0
	4	1.5	1.0	0.5
	5	1.0	0.5	—

注) 車道幅員B=5.0m以上の場合隅切りを行わない。

注 意 事 項

1. 図中の寸法は特に示さない限りミリメートル単位である。
2. 掘削後、現場の土質状況に応じて基礎部を設置変更すること。

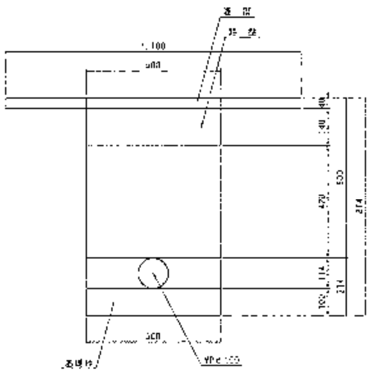
図 面 の 名 称	図面番号
標準図 (2) 道路工	$S\frac{1}{1}$
縮 尺 図示	
図 量	平成 年 月 日終了
設 計	
製 図	原 図
	枚 写
住 資 県 唐 津 農 林 事 務 所	

標 準 図 (3)

用水路工

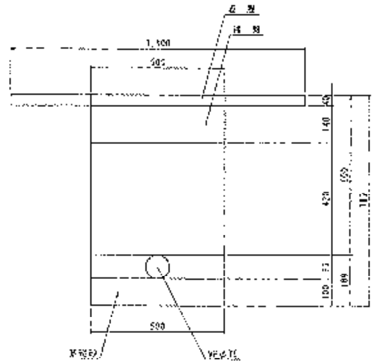
φ100

S=1:10



φ75

S=1:10



注 意 事 項

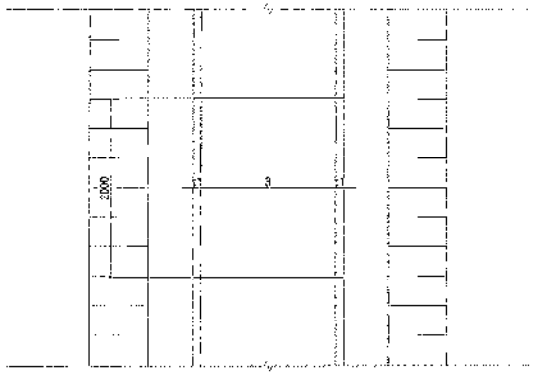
1. 図中の寸法は特に示さない限りミリメートル単位である。
2. 施工時、現場の土質状況に応じて基礎材の検討を要すること。

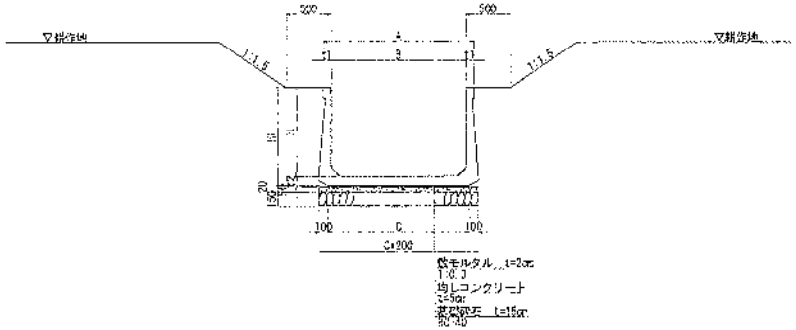
図面の名称		図面番号
標準図(3) 用水路工		
縮尺 S=1:10		
調査	平成 年 月 日 竣工	
設計		
製図		
検査		
佐賀県唐津農林事務所		

標　準　図 (4)

排水路工

三面水路
S=1:30



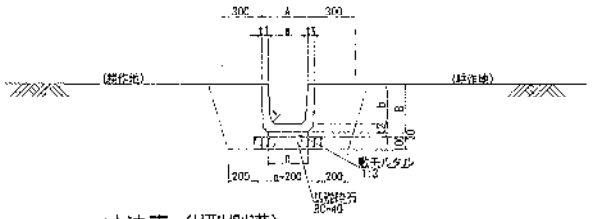


鉄筋コンクリート三面水路　寸法表

10m当り

タイプ 標　　高	寸法 (m) A (m)	B (m)	H1 (m)	H (m)	t1 (m)	t2 (m)	C (m)
1000 × 800	1.14	1.00	0.675	0.80	0.070	0.075	1.069
1000 × 1000	1.18	1.00	1.105	1.00	0.090	0.105	1.082
2000 × 1000	2.18	2.00	1.105	1.00	0.090	0.105	2.082

U型側溝
S=1:20



寸法表（U型側溝）

タイプ	a (mm)	b (mm)	t1 (mm)	t2 (mm)	A (mm)	B (mm)	r (mm)	e (mm)
U- 300×300	300	300	50	60	400	360	50	300
U- 360×360	360	360	50	65	460	425	50	360
U- 450×450	450	450	55	70	560	520	70	430
U- 600×600	600	600	70	80	740	680	70	600

注　意　事　項

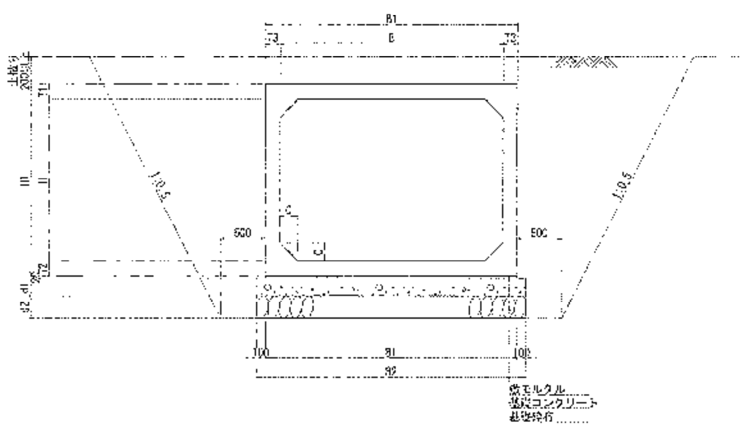
1. 図中の寸法は特に示さない限りミリメートル単位である。
2. 横断暗渠工基礎部は、標準図を示している。
3. 図別表、現場の土質状況に応じて基礎部を適宜変更すること。
4. 排水路敷設については、地耐力が不足する場合や杭を使用する場合は基礎部を補強すること。

図　面　の　名　称	図面番号
標準図 (4) 排水路工 縮　尺　図示	8 1/3
測　量	平成　年　月　日終了
設　計	
製　図	
図　複　写	
佐賀県唐津農林事務所	

標準図(5)
暗渠工

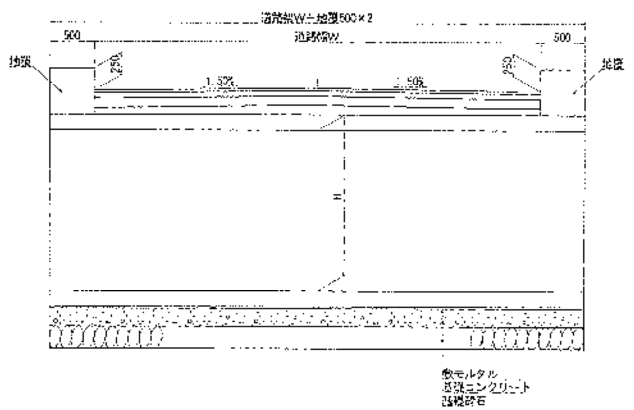
ボックスカルバート
S=1:30

断面図



地覆部
S=1:30

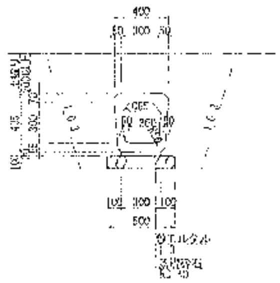
側面図



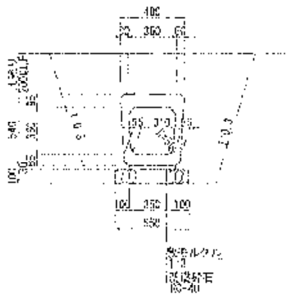
寸法表（ボックスカルバート）

B×H	B (m)	B1 (m)	H (m)	H1 (m)	L (m)	T1 (m)	T2 (m)	T3 (m)	C (m)	d1 (m)	d2 (m)	B2 (m)
1000×600	1000	1260	600	850	2000	130	130	130	150	100	150	1460
1000×1000	1000	1260	1000	1260	2000	130	130	130	150	100	150	1460
2000×1000	2000	2320	1000	1360	2000	180	180	160	200	150	200	2520

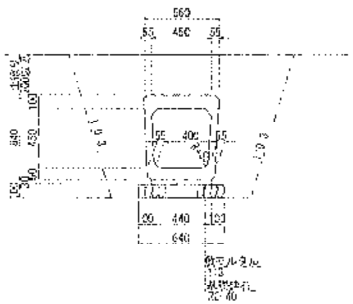
横断暗渠
(300型) S=1:20



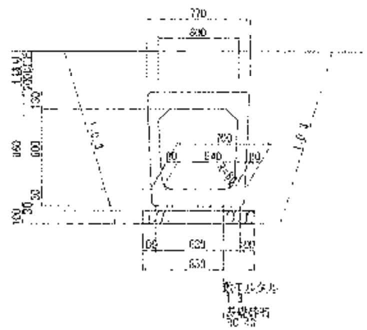
横断暗渠
(360型) S=1:20



横断暗渠
(450型) S=1:20



横断暗渠
(600型) S=1:20



図面の名称	図面番号
標準図(5) 暗渠工	9
縮尺 図示	
測量	平成 年 月 日終了
設計	
製図	
審査	
佐賀県唐津農林事務所	

標　準　図 (6)

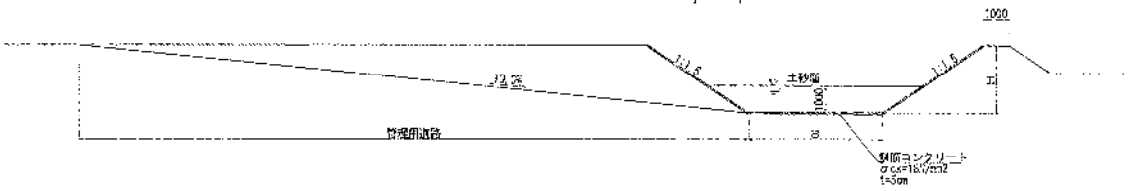
沈砂池

沈砂池工標準図

S=1:100

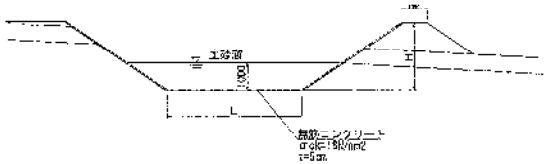
断面図

1－1

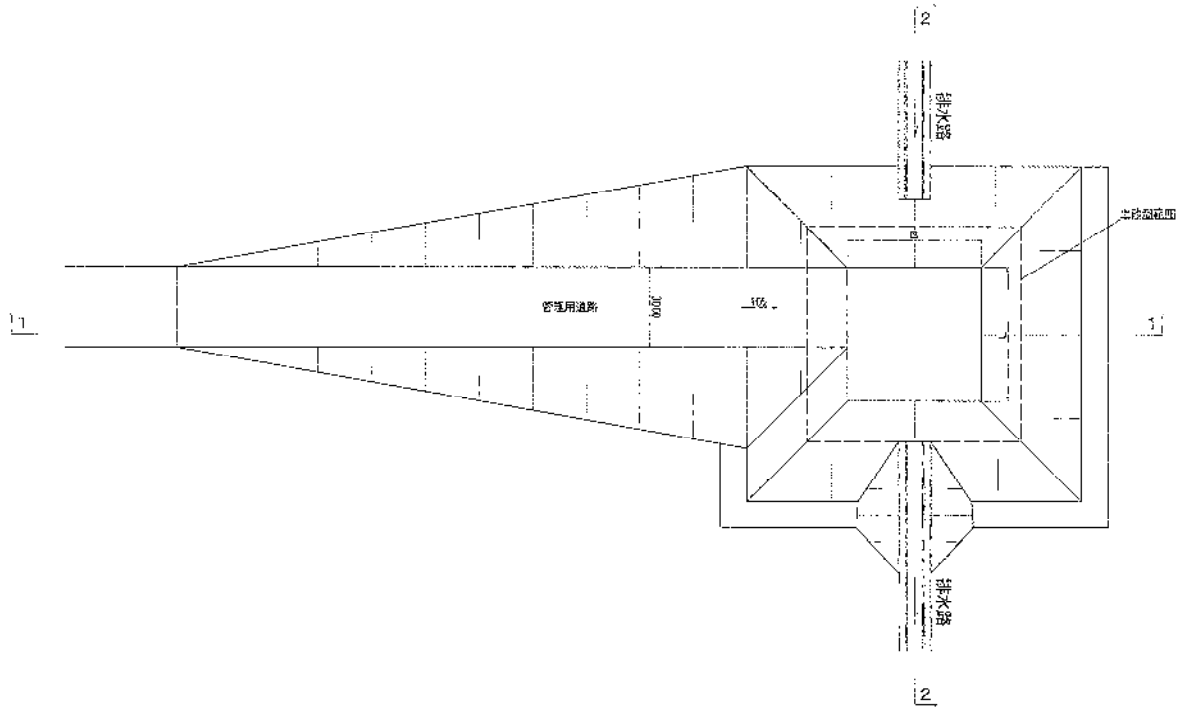


断面図

2－2



平面図



図面の名称	図面番号
標準図 (6) 沈砂池 縮尺 S=1:100	8 $\frac{1}{3}$
測量	平成　年　月　日終了
設計	
製図 原図	
図 複写	
佐賀県唐津農林事務所	